

# SYLLABUS

## 講義要項

2023

介 護 福 祉 科



学校法人 川口学園

早稲田速記医療福祉専門学校

# 目 次

## 利用の手引き

介護福祉科	1年生	1
介護福祉科	2年生	35

# 利用の手引き

この『講義要項』は、早稲田速記医療福祉専門学校の2022年度の授業科目について、講義の内容をあらかじめ示したものです。皆さんは、これに従って自分の履修する授業科目について詳しく知ることができます。

以下に授業科目の各項目を読むにあたっての留意点を示しますので、よく参照のうえ、この『講義要項』を十分に活用してください。

## 【基本情報】

基本情報欄は、授業科目の属性（科目区分）を記載する欄であり、次の項目についてカリキュラムに明記されている授業科目の属性を記載しています。

科目名	①		担当教員		②		単位数	③	
対象学科	④		学年	⑤年	授業形態	⑥	法令等指定	⑦	
履修方法	⑧	科目内容	⑨	授業期間	⑩	授業期	⑪	卒業要件	⑫
実務経験教員	⑬	実務経験内容	⑭						

記載項目	記載事項
①科目名	カリキュラムに記載されている授業科目名
②担当教員	授業科目の担当教員名（同一の授業を複数の教員が担当する場合は連名併記）
③単位数	カリキュラムに記載されている授業科目の単位数
④対象学科	その授業を実施する学科名（同一の授業科目を複数の学科で実施する場合は併記せず、それぞれ別に作成）
⑤学年	カリキュラムに記載されている授業科目の実施学年
⑥授業形態	カリキュラムに記載されている授業科目の授業形態（講義、演習、実技、実習など）
⑦法令等指定	カリキュラムに法令等による資格取得に関わる授業科目とある場合は○印を記入
⑧履修方法	カリキュラムに記載されている履修方法による科目区分（登録指定科目、選択科目）
⑨科目内容	カリキュラムに記載されている科目内容による登録指定科目の科目区分（基礎科目、専門科目、関連科目）
⑩授業期間	カリキュラムに記載されている授業期間による科目区分（半期、通年、集中）
⑪授業期	その授業科目を開講する授業期（前期、後期）
⑫卒業要件	カリキュラムに単位取得が卒業要件となっている科目の場合は○印を記入
⑬実務経験教員	実務経験のある教員による授業科目の場合は○印を記入
⑭実務経験内容	実務経験のある教員が経験した実務内容と、その経験を生かして行う教育内容

**【位置付け】**

その授業科目が、学校・学科の教育目的・目標とどのように関連しているのか、カリキュラムの中でどのような位置付けを与えられ、何を期待されているのかを記載しています。

**【授業の目的】**

授業の目的欄は、担当教員はその授業の分野、テーマにおいて何をポイントとして、何を伝えたいか、授業の目的は何かを記載しています。

**【授業の到達目標】**

その授業の終了時点で学生はどのような知識、技能などを得られるのか、何ができるようになっていくのか。そのような到達目標を記載しています。

**【成績評価の方法】**

成績評価の項目とその評価割合が記載されています。

※出席状況については学則第27条により、一部の実習科目を除き、評価割合に関わらず、出席時間数が授業時間数の2/3以上なければ評価の対象になりません。

**【成績評価に関するコメント】**

設定した成績評価項目と授業の到達目標との関連、具体的な評価項目の実施内容・実施方法、その他に特殊な出席の取扱いなどを記載しています。

**【学生へのメッセージ】**

担当教員から、授業への取組み方や授業を進めるに際してお願いしたいことを記載しています。

**【テキスト】**

授業に使用するもので、受講者全員が所持すべきものを記載しています。

**【参考図書・資料・参考ホームページ】**

授業の参考として学生が各自の判断で入手するものを記載しています。

**【授業計画】**

目標に到達するための授業の内容、進め方（方法）を各授業の回毎に具体的に記載しています。

介 護 福 祉 科      1 年 生

介護福祉科 2023年度生カリキュラム

科目区分	履修方法	科目内容	領域	教育内容	科目名	授業形態	1年次		2年次		合計		介護福祉士受験資格	
							単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数		
登録指定科目	基礎科目	人間と社会	人間の尊厳と自立	人間の尊厳と自立	人間の尊厳と自立	講義	2	30			2	30	○	
				人間関係とコミュニケーション	人間関係とコミュニケーションⅠ	人間関係とコミュニケーションⅠ	講義	2	30			2	30	○
					人間関係とコミュニケーションⅡ	人間関係とコミュニケーションⅡ	講義	2	30			2	30	○
			社会の理解	社会の理解	社会の理解	講義	4	60			4	60	○	
				生きがいと地域社会	生きがいと地域社会	講義			2	30	2	30	○	
				日本文化論	日本文化論	講義	2	30			2	30	○	
				情報と社会	情報と社会	講義	2	30			2	30	○	
			介護	介護の基本	介護の基本Ⅰ	介護の基本Ⅰ	講義	2	30			2	30	○
					介護の基本Ⅱ	介護の基本Ⅱ	講義	4	60			4	60	○
					介護の基本Ⅲ	介護の基本Ⅲ	講義	4	60			4	60	○
					介護の基本Ⅳ	介護の基本Ⅳ	講義			2	30	2	30	○
				コミュニケーション技術	コミュニケーション技術Ⅰ	コミュニケーション技術Ⅰ	講義	2	30			2	30	○
					コミュニケーション技術Ⅱ	コミュニケーション技術Ⅱ	講義	2	30			2	30	○
				生活支援技術	生活支援技術Ⅰ	生活支援技術Ⅰ	演習	2	30			2	30	○
	生活支援技術Ⅱ	生活支援技術Ⅱ			演習	2	30			2	30	○		
	生活支援技術Ⅲ	生活支援技術Ⅲ			演習	4	60			4	60	○		
	生活支援技術Ⅳ	生活支援技術Ⅳ			演習			4	60	4	60	○		
	生活支援技術Ⅴ	生活支援技術Ⅴ			演習			2	30	2	30	○		
	生活支援技術Ⅵ	生活支援技術Ⅵ			演習			2	30	2	30	○		
	生活支援技術Ⅶ	生活支援技術Ⅶ			演習			4	60	4	60	○		
	介護過程	介護過程Ⅰ		介護過程Ⅰ	演習	4	60			4	60	○		
		介護過程Ⅱ		介護過程Ⅱ	演習			4	60	4	60	○		
		介護過程Ⅲ		介護過程Ⅲ	演習			3	45	3	45	○		
	介護総合演習	介護総合演習Ⅰ		介護総合演習Ⅰ	演習	4	60			4	60	○		
		介護総合演習Ⅱ		介護総合演習Ⅱ	演習			4	60	4	60	○		
	介護実習	介護実習Ⅰ		介護実習Ⅰ	実習	2	60			2	60	○		
		介護実習Ⅱ		介護実習Ⅱ	実習	5	150			5	150	○		
		介護実習Ⅲ		介護実習Ⅲ	実習			6	180	6	180	○		
		介護実習Ⅳ		介護実習Ⅳ	実習			2	60	2	60	○		
	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ		こころとからだのしくみⅠ	こころとからだのしくみⅠ	講義	4	60			4	60	○	
				こころとからだのしくみⅡ	こころとからだのしくみⅡ	講義			4	60	4	60	○	
		障害の理解		障害の理解	障害の理解	講義			4	60	4	60	○	
				発達と老化の理解Ⅰ	発達と老化の理解Ⅰ	講義	2	30			2	30	○	
		発達と老化の理解		発達と老化の理解Ⅱ	発達と老化の理解Ⅱ	講義			2	30	2	30	○	
				認知症の理解	認知症の理解	講義	4	60			4	60	○	
		医療的ケア	医療的ケア	医療的ケアⅠ	医療的ケアⅠ	講義	4	60			4	60	○	
	医療的ケアⅡ			医療的ケアⅡ	演習			1	15	1	15	○		
	科目連			介護福祉ゼミⅠ	介護福祉ゼミⅠ	演習	2	30			2	30		
				介護福祉ゼミⅡ	介護福祉ゼミⅡ	演習			2	30	2	30		
	合計							67	1,110	48	840	115	1,950	

※介護福祉科の卒業には、修業年限以上在学し、介護福祉士資格取得に必要な全教科の単位を修得し、かつ1700時間相当の単位数の修得が要

科目名	人間の尊厳と自立			担当教員	山本 貴子		単位数	2	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士、居宅介護支援専門員として、訪問介護12年、居宅介護支援5年、看多機等で勤務。社員等への研修に係わる。他経営に携わる。						
<b>□位置付け</b> 人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う。									
<b>□授業の目的</b> ●これまでの福祉の歴史において、社会保障の制度、施策について基本的な知識を身につける。 ●人権や福祉理念が変わってきたかを理解し、人間の尊厳を学ぶ。 ●自立の重要性を理解し、利用者の主体性を大切に自立支援のあり方を考え、実践できるようになる。 ●組織でのコミュニケーションやチームマネジメントの基礎を学ぶ。									
<b>□授業の到達目標</b> 1. 福祉理念の歴史の変遷を理解し、人間の人権や権利擁護を考えられるようになる。 2. 利用者主体の視点で、尊厳保持や自己決定の考え方を理解できる。 3. 支援のあり方を理解し、尊厳の守る自立支援を理解できる。 4. 組織において自らの考え方を伝えられるようになる。									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況				—	<b>定期試験及び、毎回授業での振り返りレポートを作成していただきます。</b>  <b>□学生へのメッセージ</b> 介護福祉の基本を学びます。意見を聞くこと、話すこと、書くこと重視しながら講義をすすめます。 事例を多く取込み授業を進めますので、授業では協力し合って参画してください。				
試験等	提出物			—					
	レポート			50					
	随時試験			—					
	定期試験			50					
	平常の授業状況(授業態度)			—					
その他( )			—						
合計				100%					
<b>□テキスト</b>					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>				
最新介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第2版 中央法規出版会社									

### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	授業概要、人間の尊厳と自立の概要	授業概要の説明 人間の尊厳と自立の全体像の説明
2	人間の尊厳と自立の意義	人間の尊厳と人権思想の概要
3	人間の尊厳と自立の歴史としくみ	福祉理念の歴史から人間の尊厳や自立を学ぶ
4	日本の福祉制度と基本的理念	日本の制度の歴史から基本的理念を学ぶ
5	人権の擁護の基本的方法の理解	人権擁護の基本的な方法について理解を深める
6	社会福祉領域での人権・福祉理念	人権・福祉理念と社会福祉の変遷
7	日常的な生活の質を高めるQOLの考え方	介護を必要とする人について理解を深める
8	人権の尊重と尊厳のまとめ	人間の尊厳のまとめと利用者主体のあり方を学ぶ
9	自立の概念の理解	自立の全体像により理念を学ぶ
10	自立支援に必要な方法を理解する	自立支援を必要とする方法の理解を深める
11	自立への意欲と動機付け	自立への意欲と動機付けのあり方を学ぶ
12	介護を必要とする人の自立支援	介護と自立支援について理解を深める
13	身体的・精神的・社会的な自立	それぞれの自立に必要なことを
14	自立生活の支援方法と尊厳の保持	日々の生活から自立支援のあり方について学ぶ
15	定期試験	筆記試験60分 振り返りとまとめ30分

科目名	人間関係とコミュニケーション I		担当教員	松田 朗		単位数	2		
対象学科	介護福祉		学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	○	
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	3年間の施設介護と20年間の訪問介護の実務経験、15年間の管理職経験、MHSWとして15年間の相談室における心理的支援の実務経験を活かし、心身の状況に応じた支援に必須となる知識と技術の使い方をわかりやすく伝える。						
<b>□位置付け</b> 対人援助に必要な人間の関係性を理解し関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する。									
<b>□授業の目的</b> ①人との関わりを通して人の心はどのように成長するのかを理解する。 ②コミュニケーションの構造や特性について理解する。 ③支援者として重要なコミュニケーションの基礎を理解する。 ④組織において求められるコミュニケーションの要点を理解する。									
<b>□授業の到達目標</b> ①人との関わりが人の心の成長に及ぼす影響について、科学的な根拠に基づいた表現ができる。 ②コミュニケーションの構造や特性に基づいた目的のある対話を具体的に想定できる。 ③対人援助における基本的態度を体現（反応）できる。 ④集団討議（目的の共有と自由な意見交換）ができる。									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況					・毎回の授業で振り返りレポートを作成していただきます。このレポートには出席状況点が含まれます。				
試験等	提出物				・評価の詳細は初回の授業で説明いたします。				
	レポート			50	<b>□学生へのメッセージ</b>				
	随時試験				・遊び心を大切にし、感性を磨きましょう。				
	定期試験			50	・発想を柔軟にして、たくさん想像しましょう。				
	平常の授業状況（ ）				・一緒に学びを楽しみましょう。				
その他（ ）				・メアド matsuda.akira@wasedasokki.jp					
合 計				100%					
<b>□テキスト</b>					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>				
・最新介護福祉士養成講座1 人間の理解（中央法規）第2版					・「わかりあえないことから」平田オリザ著 ・「聴く・伝える・共感する技術便利帳」大谷佳子著				

### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	講師紹介／授業内容解説／評価方法解説／他
2	自分と他者の理解	自己理解、他者理解、自己開示などについて学びます。
3	発達心理学から見た人間関係	発達段階説、パーソナリティなどについて学びます。
4	社会心理学から見た人間関係	他者との関わり、集団との関わりなどについて学びます。
5	人間関係とストレス	ストレス対処行動などについて学びます。
6	まとめのテスト／振り返り	1回目から5回目の授業内容を整理します。
7	コミュニケーションの基本構造	対人関係におけるコミュニケーションを学びます。
8	コミュニケーションの手段	非言語の種類とメッセージについて学びます。
9	対人援助における基本的態度	受容、共感、傾聴について学びます。
10	援助的人間関係の形成	援助関係を形成する7つの原則について学びます。
11	バイスティックの7原則	バイスティックの7原則についてさらに考えます。
12	まとめのテスト／振り返り	7回目の授業～11回目の授業の内容を整理します。
13	組織とコミュニケーションの特徴	組織の条件とコミュニケーションの特徴を学びます。
14	情報の流れとコミュニケーション	組織における情報の流れと求められる能力を学びます。
15	期末試験	レポート提出

科目名	人間関係とコミュニケーションⅡ		担当教員	藍原 義勝		単位数	2		
対象学科	介護福祉		学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	○	
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士として医療法人が経営する在宅サービスに22年以上勤務。患者・利用者の相談援助に従事する傍ら、地域づくりに10年以上活動している。事例・経験をもとに講義を行う。						
<input type="checkbox"/> <b>位置付け</b> 介護実践のために必要な人間関係の理解や、対人援助理解、基礎的なコミュニケーション能力を養うと同時に「介護サービスの特性」「チームマネジメントの基本」に対する考え方とその取り組みについて学ぶ。									
<input type="checkbox"/> <b>授業の目的</b> 介護は医療や保健等からなる包括的なチームによる実践です。チームで働く力を養うためには、マネジメントに関する基礎的な知識をおさえるだけでなく、リーダー・フォロワーがとるべき行動を理解し、チームワークを展開できる実践力について学ぶ。									
<input type="checkbox"/> <b>授業の到達目標</b> ① 組織の運営と管理を理解する。 ② 人材の育成や活用を理解する。 ③ リーダーシップとフォロワーシップを理解する。 ④ チームマネジメントの基礎的な知識を理解する。									
<input type="checkbox"/> <b>成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<input type="checkbox"/> <b>成績評価に関するコメント</b>				
出席状況				20	・出席状況を評価項目に設定します。 ・また、定期試験は、予め提示したテーマについてその内容説明と自分の理解を記載する論述式とします。				
試験等	提出物			—	<input type="checkbox"/> <b>学生へのメッセージ</b> ・人とのコミュニケーションを通じて、「チーム力を向上」させる大事さや、要点を一緒に学びましょう。それは、どんな仕事にも適応できるオールマイティな考え方です。				
	レポート			—					
	随時試験			—					
	定期試験			80					
	平常の授業状況 ( )			—					
その他 ( )			—						
合計				100%					
<input type="checkbox"/> <b>テキスト</b>				<input type="checkbox"/> <b>参考図書・資料・参考ホームページ</b>					
最新 介護福祉士養成講座1 人間の理解(中央法規)									

**授業計画**

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	介護サービスの特性と求められるチームマネジメント	介護の特性を学ぶ
2	チームマネジメントの基本	チームマネジメントの基本を学ぶ
3	ケアを展開するために必要なチームとその取組	ケアを展開するために必要なチームとその取組を学ぶ
4	実践力を高めるためのチームマネジメント	実践力を高めるために大事な要点を学ぶ
5	チームに必要なリーダーシップとフォロワーシップ	リーダーシップとフォロワーシップについて学ぶ
6	介護福祉職のキャリアデザインと求められる実践力	キャリアデザインについて学び、自分の未来について想像する
7	介護福祉職のキャリア支援・開発	キャリア支援・開発の存在と重要性について学ぶ
8	介護福祉職のキャリア開発と自己研鑽	自己研鑽の実際について学ぶ
9	介護サービスを支える組織の構造・機能と役割	現場施設の組織体系について学ぶ
10	ケースメソッド「チーム」によるアセスメントの歪み①	ケースを通して、アセスメント時の課題と改善策について考える
11	ケースメソッド「チーム」によるアセスメントの歪み①	ケースを通して、アセスメント時の課題と改善策について考える

12	自立支援の介護サービスと多職種連携	自立支援サービスする際の介護士の「視点」と多職種連携の基本の「き」について学ぶ
13	これまでの振り返り	過去の復習をする
14	地域におけるチームマネジメント	実践団体である東京都大田区にある「みま～も」について学ぶ
15	定期試験	試験を受ける

科目名	社会の理解			担当教員	星野 有史		単位数	4	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験 教員		実務経験 内容							
<input type="checkbox"/> 位置付け 対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する。									
<input type="checkbox"/> 授業の目的 少子高齢化が進む社会にあって子育てや介護、貧困などの問題は深刻であり、さまざまな社会保障の施策が問われています。それらに対する制度の充実、行政の役割は重要ですが、家族や住民を支援しつつ、協同するネットワークがなければ地域共生社会の実現は難しいでしょう。『社会の理解』ではこうした問題の社会背景を分析し、現代に問われる福祉課題にアプローチしていきます。									
<input type="checkbox"/> 授業の到達目標 1. 家族と地域について学ぶことにより、生活ニーズを捉え、適切な介護につなげていくための視点を養うことができる。 2. 介護保険制度、障害者総合支援制度、生活保護制度など、社会保障の知識を得ることで、要介護者と家族に適切な情報を提供できるようになる。 3. 地域包括ケアについて理解することで、家族や住民、他職種と連携する知識を得ることができる。									
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法									
評価項目		割合		<input type="checkbox"/> 成績評価に関するコメント 制度の理解は必要ですが、同時に人権感覚、尊厳の意味、社会問題を捉える視点は重要です。したがってレポート試験と共に、課題の提出、授業参画度などを合わせて評価します。出席状況は評価の前提です。 <input type="checkbox"/> 学生へのメッセージ 教科書の理解は勿論ですが、関連する文献に触れたり、ボランティア活動や福祉対象者と関わるなど、体験的に学ぶ時間を作ってください。授業では事例検討を多く取り入れますので積極的な発言をお願いします。					
出席状況		-							
試験等	提出物	30							
	レポート	50							
	随時試験	-							
	定期試験	-							
	平常の授業状況(授業態度)	20							
その他( )		-							
合計		100%							
<input type="checkbox"/> テキスト 最新 介護福祉士養成講座2 社会の理解 (中央法規)					<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ				

### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	福祉学習の視点	生活ニーズの捉え方と介護福祉士の役割を学びます
2	福祉問題の理解	少子高齢化のメカニズムと全体関連性を把握します
3	支え合いの原理	自助、互助、共助、公助の意味を考えます
4	社会と貧困対策	援助の起源と社会保障成立までの歴史を紐解きます
5	社会福祉の発展	戦後社会の動向と福祉六法体制について学びます
6	社会福祉の概念	幸福追求権を基盤に福祉とは何かを考察します
7	社会保障制度の概要	社会保障の目的と機能、制度を体系的に理解します
8	社会保障制度における給付と負担	持続可能な制度の在り方について考えます
9	社会福祉と人権	日本国憲法と社会保障(生存権)について学びます
10	生活保護法の概要	健康で文化的な最低限度の生活について考えます
11	現代社会と福祉問題	生活困窮者自立支援法に見る生活実態を分析します
12	人権擁護に関する制度	虐待防止・個人情報保護などの制度を学びます
13	多問題家族と地域包括ケア	行政・住民・専門職が協働する地域を検討します
14	地域福祉とボランティア	福祉コミュニティと公私役割の課題を明確にします
15	地域共生社会の実現に向けて	インクルーシブ社会の課題についてまとめます

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	少子高齢化と家族支援	人口構造と生活機能の変化について理解します
17	高齢者福祉の概念	老いの特質と高齢者支援の諸制度を理解します
18	社会変動と介護保障	家族介護から社会的介護の変遷を考察します
19	介護保険制度の概要	介護保険創設の背景（措置から契約へ）を学びます
20	介護保険制度の仕組み	申請・要介護認定・ケアプラン・実施過程を見ます
21	ケアマネジメントの実際	地域包括支援センターと専門職の連携を学びます
22	高齢者保健福祉の課題	人生の質（QOL）を高める介護について考えます
23	自立支援の目的	介護保険と障害者支援を基盤に自立を検討します
24	人権と生活保障	権利擁護と成年後見制度について学びます
25	障害者福祉の概念	障害者支援の変遷と諸制度を体系的に理解します
26	障害者総合支援制度の概要	障害福祉サービスと相談支援について学びます
27	障害者総合支援制度の仕組み	申請・障害支援区分の認定・実施過程を見ます
28	障害者保健福祉の課題	国際生活機能分類（ICF）から障害を捉えます
29	バリアフリー社会	心と社会のバリアフリーが意味する課題を考えます
30	介護と生活環境	地域共生社会が目指す社会像についてまとめます

科目名	日本文化論		担当教員	内村 佳代子		単位数	2		
対象学科	介護福祉		学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	○	
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	航空会社営業部に8年間勤務後、接遇コンシェルジュとして3年間勤務。これらの実務経験をもとに職場における周りの方々への心遣いやマナーの大切さを伝える。						
<b>□位置付け</b> 介護を実施するにあたって必要な礼儀作法や社会人としてのマナーや接遇、日本の伝統文化について理解する。									
<b>□授業の目的</b> ①介護現場に求められる心遣い・適切な言葉遣い・身だしなみ・立ち居振る舞いを習得する。 ②職場での良好な人間関係の築き方を学ぶ。 ③高齢者が大切に、馴染んできた日本の文化や習慣を理解する。									
<b>□授業の到達目標</b> ①社会人としてのマナー、接遇の心構えを学ぶことで、相手を大切にしたいの心を養う。 ②社会人としてのマナー、接遇の基本を実践することで、良好な人間関係を築く。 ③高齢者が大切に、馴染んできた日本の文化や習慣を学ぶことで、相手に寄り添う姿勢を学ぶ。									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況				30	出席数と授業態度を重視します。 積極的に授業に参加してください。				
試験等	提出物			—	<b>□学生へのメッセージ</b> 「わかる」から「できる」まで、ロールプレイングやグループワークを通して体験的に学びます。 一緒に頑張りましょう。				
	レポート			—					
	随時試験			—					
	定期試験			40					
	平常の授業状況(授業態度)			30					
その他 ( )			—						
合計				100%					
<b>□テキスト</b>					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b> オリジナルレジュメ配付				

#### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	接遇マナーとは	心を形に、形に心を添えるおもてなしの気持ち
2	介護福祉士に必要な資質	人間関係を築くコミュニケーションマナー
3	日本の伝統文化としきたり	季節の祭事
4	信頼関係を築く言葉遣い	敬語の種類と使い方、好感を持たれる言葉遣い
5	電話応対	電話の受け方、掛け方
6	来客者の応対	受付、案内、お茶出し、見送り
7	ビジネスメールの基本	ビジネスメールの特徴と形式
8	仕事の進め方の留意点	指示の受け方と報告・連絡・相談の仕方
9	ビジネス文書の基本	手紙の書き方、封筒の宛名書き
10	慶弔時への対応	冠婚葬祭のしきたり
11	日本の地理	日本の地理と都道府県の特徴
12	来客応対ロールプレイング	応対者と訪問者の言葉遣い・立ち居振る舞いの実践
13	傾聴の重要性、会話の留意点	上手な聴き方とわかりやすい伝え方
14	総復習	日本文化論の総まとめ
15	定期試験	

科目名	情報と社会			担当教員	飯田 恵美子		単位数	2	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	製品・サービス企画として IT 系企業に 13 年勤務。IT 業界の最新の市場動向を分析し、製品の改善と普及に努める。						
<b>□位置付け</b> 現代社会の基礎的問題を理解し、社会を見つめる感性や現代を生きる人間としての生き方について理解する。									
<b>□授業の目的</b> ①「society 5.0 社会」において、学生が主体的に社会の一員として活躍し続けるための基盤となる知識と技術を身につける。 ②「society 5.0 社会」における介護福祉・地域福祉のあり方について考察し理解を深める。 ③就業先での PC 操作がスムーズに行えるようになる。									
<b>□授業の到達目標</b> Society 5.0 社会での介護のありかたを理解し、ロボット介護など適切に検討、導入することができるようになる。									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況				60%	毎回、その回のまとめなど課題を提出することで評価します。理解状況を把握するため、わからなかった点があればそのように書いてください。理解が足りない点については次回フォローの参考にします。  <b>□学生へのメッセージ</b> 介護と ICT という、離れた印象のある授業ですので、できるだけかみ砕いた内容でお伝えしたいと考えています。				
試験等	提出物			30%					
	レポート								
	随時試験								
	定期試験								
	平常の授業状況(授業態度)			10%					
その他 ( )									
合計				100%					
<b>□テキスト</b> 必要に応じてプリント配布					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b> 二訂版 スマート介護士資格 公式テキスト For Basic & Expert				

#### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方を説明。PC 基礎 (コンピューターの基本)
2	PC 操作 1	Windows の基本と操作方法の確認。アプリの起動方法やエクスプローラーなどファイル操作
3	PC 操作 2	文字入力の基本と応用。単語登録や難読文字の入力方法など
4	アプリ操作 1	Word の基本操作
5	アプリ操作 2	Excel の基本操作
6	ハードウェア・インフラ動向	5G, クラウドを利用したエッジコンピューティングの動向について解説
7	プログラミング体験	ハードウェア制御のためのプログラミング体験
8	ソフトウェア技術動向	前の 2 回を踏まえ、ネットと介護が結びつく将来像をイメージしてもらう
9	介護ロボット概論 1	政府の重点分野解説
10	介護ロボット概論 2	販売中の製品紹介
11	アプリ操作 3	PowerPoint の基本操作
12	介護ロボットの評価方法の確認	事例をもとに評価方法を確認
13	評価実習 2, 導入の流れ	介護ロボットの活用のシステム化にあたり、必要なことを確認
14	介護支援業務システムの導入、将来の話	介護ロボットを業務に取り入れるまでの過程や問題について
15	アプリ操作 4	パワポ応用、発表資料作成

科目名	介護の基本 I			担当教員	濱野 厚子		単位数	2	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士および介護支援専門員として介護施設・事業所に20年以上勤務。施設及び在宅での介護経験をもとに介護福祉士で大切な視点での講義をしていく。現在も高齢者施設で勤務をしながら、実際の介護技術を伝えていく。						
<b>□位置付け</b> 介護福祉士の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職として能力と態度を養う。									
<b>□授業の目的</b> 介護の成り立ちや介護概念の変遷、尊厳の保持や自立支援という介護の基本となる理念を習得する。介護福祉士の役割と機能、介護実践における知識や技術について、基本的な専門職としての視点を養う。									
<b>□授業の到達目標</b> 利用者の尊厳の保持と自立支援について意味を理解し、求められる介護福祉士の役割を習得する。介護福祉士の専門性を理解し、介護実践でチームリーダーとして、利用者とのかわりに活かすことができる。									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況				10	授業中はグループワークやディスカッションにも積極的に参加しましょう。教科書だけではなく配布資料からも試験問題が出題されるのでまとめておきましょう。提出物は期限を守ってください。 <b>□学生へのメッセージ</b> 介護福祉の歴史や理念を理解して介護福祉士の役割を学び、介護の仕事のやりがいを実感しましょう				
試験等	提出物			10					
	レポート								
	随時試験（小テスト）			20					
	定期試験			50					
	平常の授業状況(授業態度)			10					
その他（ ）									
合計				100%					
<b>□テキスト</b>					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>				
最新介護福祉士養成講座3「介護の基本I」中央法規					「新しい介護」「介護リスクマネジメント」講談社「介護福祉士国試ナビ」中央法規 他は授業時に紹介				

#### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	授業内容・評価方法説明 介護の基本とは
2	介護福祉を取り巻く状況	介護の成り立ち
3	介護の歴史①	老人福祉法の制定までの社会福祉政策
4	介護の歴史②	年代別に見た介護福祉政策①
5	介護の歴史③	年代別に見た介護福祉政策②
6	介護福祉の基本理念①	介護福祉士の理念とは
7	介護福祉の基本理念②	尊厳と自立を考える介護
8	介護福祉の基本理念③	利用者主体の自立支援・自己決定
9	介護福祉士の役割と機能	社会福祉士および介護福祉士法
10	介護福祉士の活動の場と役割①	介護予防が求められる背景
11	介護福祉士の活動の場と役割②	介護福祉士の多様な役割
12	介護福祉士に求められる役割とその養成	チームリーダーとしての介護福祉士への期待
13	介護福祉士を支える団体	介護福祉士を支える各団体の役割と機能
14	試験対策	今までの振り返り 試験対策問題
15	定期試験	筆記試験

科目名	介護の基本Ⅱ			担当教員	松田 朗		単位数	4	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	3年間の施設介護と20年間の訪問介護の実務経験、15年間の管理職経験、MHSWとして15年間の相談室における心理的支援の実務経験を活かし、心身の状況に応じた支援に必須となる知識と技術の使い方をわかりやすく伝える。						
<b>□位置付け</b> 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。									
<b>□授業の目的</b> 生活支援を必要としながらも、住み慣れた地域社会で可能な限り自分らしい生活をしたいと願っているに人に対するサービス提供方法と多職種連携の必要性を学ぶ。介護の理念を実現するために、倫理・知識・技術を統合し、サービス利用者の生活の視点から「介護の基本」と「生活支援技術」を関連付け、基礎的な力を培い、実践力を高めることを目指す。									
<b>□授業の到達目標</b> ①介護福祉士の活動の拠り所となる職業倫理と日本介護福祉士会の倫理綱領の要点を説明できる。 ②自立支援の展開と利用者理解に役立つICFのしくみと、ICFを利活用する理由を説明できる。 ③生活を通したリハビリテーション（生活リハ）の意義と価値を説明できる。 ④介護予防の意義・目的が説明できる。 ⑤これからの介護予防サービスについて、自分の考えを説明できる。									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況					・毎回の授業で振り返りレポートを作成していただきます。このレポートには出席状況点が含まれます。 ・評価の詳細は初回の授業で説明いたします。 <b>□学生へのメッセージ</b> ・遊び心を大切にし、感性を磨きましょう。 ・発想を柔軟にして、たくさん想像しましょう。 ・一緒に学びを楽しみましょう。 ・メールアドレス matsuda.akira@wasedasokki.jp				
試験等	提出物		50						
	レポート								
	随時試験								
	定期試験		50						
	平常の授業状況(授業態度)								
その他( )									
合計				100%					
<b>□テキスト</b>					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>				
・最新介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ（中央法規）第2版					その都度授業の中でご紹介していきます				

### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション/介護における倫理	講師紹介/授業内容解説/評価方法解説/他
2	介護における倫理	介護に携わる人が持つべき職業倫理
3		介護倫理の実践/尊厳ある介護実践
4		プライバシーの保護と介護倫理/プライバシーの保護
5		高齢者虐待と生命倫理/虐待防止法
6		身体拘束の場面と介護福祉士/身体拘束
7		認知症ケアの場面・自立支援の場面と介護福祉士
8		人生の最終段階と介護福祉士/尊厳ある介護の実践
9	介護福祉職に求められる職業倫理	法令遵守
10		法における介護福祉士の義務規定
11	日本介護福祉士会倫理綱領	利用者本位・自立支援/専門的サービスの提供
12		プライバシーの保護/総合的サービスの提供・連携協力
13		利用者ニーズの代弁
14		地域福祉の推進/後継者育成
15	中間テスト	筆記試験

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	介護福祉における自立支援	身体的・精神的・社会的自立
17	利用者理解の視点	ICFの考え方／自立支援とエンパワメント
18	意思決定支援	自己決定の支援 ～ライフスタイル～生命・身体～
19	生活意欲・活動	社会参加／アクティビティ生活環境の整備
20	就労支援・自立と生活支援	働く／バリアフリー／ユニバーサルデザイン
21		地域との関わり／福祉のまちづくり
22	介護におけるICFのとらえ方	ICFとは／ICFにみる相互関連性
23		利用者の持つ「強さ」に着目する
24	リハビリテーションと介護福祉士	リハビリテーションの目的と役割／体系・領域・専門職
25		生活を通したリハビリテーション
26		健康と障がい／ADLの概念と評価方法／QOLの概念
27		リハビリテーションと自立／介護福祉士の役割
28	自立支援と介護予防	介護予防の目的と考え方／取り組み／種類と特徴
29		これからの予防サービス／高齢者と介護予防
30	定期試験	筆記試験

科目名	介護の基本Ⅲ			担当教員	濱野 厚子		単位数	4	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士および介護支援専門員として介護施設・事業所に20年以上勤務。施設及び在宅での介護経験をもとに介護福祉士で大切な視点での講義をしていく。現在も高齢者施設で勤務をしながら、実際の介護技術を伝えていく。						
<b>□位置付け</b> 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。									
<b>□授業の目的</b> 住み慣れた地域で可能な限り生活をしたいと願っている高齢者や障害者に対し、サービスの利用方法と多職種連携の必要性を学ぶ。介護の理念を実現するために、利用者の生活の視点から「介護の基本」と「生活支援技術」「介護過程」を関連付け、基礎的な力を培い、実践力を高めることを目指す。									
<b>□授業の到達目標</b> 介護を必要としている人やその介護者についての理解を深める。生活能力や意欲を引き出すことの必要性、自立に向けた支援についての知識を身につける。生活上の課題の解決のために必要なサービスや地域の社会資源を理解する。多職種連携・地域連携の意味と必要性、その実際について理解する。介護者の安全・健康管理を保障するための知識・技術を活用できるようにする。									
<b>□成績評価の方法</b>				評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>			
出席状況					10	授業中はグループワークやディスカッションにも積極的に参加しましょう。教科書だけではなく配布資料からも試験問題が出題されるのでまとめておきましょう。提出物は期限を守ってください。 <b>□学生へのメッセージ</b> 介護を必要とする人を取り巻く環境を理解して、介護福祉士の役割を学び、介護の仕事のやりがいを実感しましょう。			
試験等	提出物				10				
	レポート								
	随時試験（小テスト）				20				
	定期試験				50				
	平常の授業状況(授業態度)				10				
その他（ ）									
合計					100%				
<b>□テキスト</b>					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>				
最新介護福祉士養成講座4「介護の基本Ⅱ」中央法規					「新しい介護」「介護リスクマネジメント」講談社「介護福祉士国試ナビ」中央法規 他は授業時に紹介				

### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	授業内容・評価方法説明 介護の基本とは
2	介護福祉を必要とする人の理解①	私たちの生活の理解
3	介護福祉を必要とする人の理解②	介護福祉を必要とする人の生活
4	介護福祉を必要とする人の暮らし①	介護福祉を必要とする高齢者の暮らし
5	介護福祉を必要とする人の暮らし②	介護福祉を必要とする障害者の暮らし
6	「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解	「その人らしさ」の介護福祉における活用
7	生活のしづらさの理解とその支援	利用者と家族介護者への支援
8	生活を支えるフォーマルサービスとインフォーマルサービス	フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係性
9	フォーマルサービス 介護保険制度①	介護保険制度におけるサービス①
10	フォーマルサービス 介護保険制度②	介護保険制度におけるサービス②
11	フォーマルサービス障害者総合支援法①	障害者総合支援法によるサービス①
12	フォーマルサービス障害者総合支援法②	障害者総合支援法によるサービス②
13	介護福祉士に求められる支援の視点①	身体拘束と不適切ケア
14	試験対策	前期の振り返り 試験対策問題
15	定期試験	筆記試験

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	介護福祉士に求められる支援の視点②	フォーマルサービスの視点からの支援①
17	介護福祉士に求められる支援の視点③	フォーマルサービスの視点からの支援②
18	フォーマルサービス 介護保険制度①	(復習)施設サービス・地域密着サービス
19	フォーマルサービス 介護保険制度②	(復習)居宅サービス
20	フォーマルサービス 介護保険制度③	(復習)地域支援事業
21	フォーマルサービス障害者総合支援法①	(復習)障害者総合支援法によるサービス
22	フォーマルサービス障害者総合支援法②	(復習)地域生活支援事業
23	地域連携	地域連携にかかわる機関の理解
24	多職種連携・協働の必要性	多職種連携・協働とは
25	多職種連携・協働に求められる基本的な能力	多職種連携・協働のコミュニケーション
26	保健・医療・福祉職の役割と機能①	保健・医療・福祉職の役割と機能①
27	保健・医療・福祉職の役割と機能②	保健・医療・福祉職の役割と機能②
28	多職種連携の実際①	多職種連携の実態調査からみえること①
29	多職種連携の実際② 試験対策	多職種連携の実態調査からみえること② 試験対策問題
30	定期試験	筆記試験

科目名	コミュニケーション技術 I			担当教員	松田 朗		単位数	2	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	3年間の施設介護と20年間の訪問介護の実務経験、15年間の管理職経験、MHSWとして15年間の相談室における心理的支援の実務経験を活かし、心身の状況に応じた支援に必須となる知識と技術の使い方をわかりやすく伝える。						
<b>□位置付け</b> 対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う。									
<b>□授業の目的</b> ①介護におけるコミュニケーションの基礎を理解する。 ②介護場面における利用者や家族への援助的コミュニケーション技法を習得する。 ③利用者の特性に応じた援助的コミュニケーション技法を理解する。 ④家族とのパートナーシップ構築の必要性（効果）を理解する。 ⑤介護におけるチームのコミュニケーション技法を習得する。									
<b>□授業の到達目標</b> ①より効果的な（サービスの質が高まる）支援関係を創るための言動を、具体的に想定できる。 ②身体化の重要性を踏まえ、閉ざされた心に働きかける言動を、具体的に想定できる。 ③コミュニケーション障がいのある者に対して不安・不快・不信感を抱かせない言動を具体的に想定できる。 ④家族とのパートナーシップを築く際に注意することを指摘できる。 ⑤チーム内の連携を促進するための基本的な行動の要点を図示できる。									
<b>□成績評価の方法</b>				評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>			
出席状況					—	・毎回の授業で振り返りレポートを作成していただきます。このレポートには出席状況点が含まれます。 ・評価の詳細は初回の授業で説明いたします。 <b>□学生へのメッセージ</b> ・遊び心を大切に、感性を磨きましょう。 ・発想を柔軟にして、たくさん想像しましょう。 ・一緒に学びを楽しみましょう。 ・メアド matsuda.akira@wasedasokki.jp			
試験等	提出物				—				
	レポート				50				
	随時試験				—				
	定期試験				50				
	平常の授業状況（ ）				—				
その他（ ）				—					
合計					100%				
<b>□テキスト</b> 最新 介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術 第2版 (中央法規)					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b> 「聴く・伝える・共感する技術便利帳」 大谷佳子著				

### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	介護におけるコミュニケーションの基本①	科目の説明・レポートの書き方・評価方法の説明/意義と目的/役割と支援対象への理解/支援関係を構築改善し継続していくための基本的な知識を学びます。
2	介護におけるコミュニケーションの基本②	
3	コミュニケーションの基本技術①	ペアワークやグループワークを通して、傾聴・受容・共感といった介護におけるコミュニケーションの基盤となる技術をより確かなレベルに引き上げ/言語・非言語を意図的に効果的に使いこなすための基本的な技術の修得と/支援の対象者の潜在力を引き出す技術の修得を目指します。
4	コミュニケーションの基本技術②	
5	対象者の特性に応じたコミュニケーション①②③④⑤⑥	コミュニケーション障害への対応の基本を学び/様々なコミュニケーション障害（視覚障害・聴覚障害・構音障害・失語症・認知症・うつ病・抑うつ症状・統合失調症・知的障害・発達障害・高次脳機能障害・重症心身障害など）がある人への基本的な支援方法を学びます。
6		
7		
8		
9		
10		
11	家族とのコミュニケーション①	家族とのパートナーシップを構築し、さらに改善・継続させていくための知識と技術の習得を目指します。
12	家族とのコミュニケーション②	
13	介護におけるチームのコミュニケーション②	意義と目的を理解し、より機能的なチームを創造していくための知識と技術（報告・連絡・相談・記録・会議・情報管理・事例検討等）の習得を目指します。
14	介護におけるチームのコミュニケーション③	
15	期末試験	

科目名	コミュニケーション技術Ⅱ		担当教員	高須 一美		単位数	2		
対象学科	介護福祉		学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	○	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	手話通訳士として、TV通訳、政見通訳、講演会、学校、介護施設等で通訳業務20年以上。現場で役立つ技術を指導していきます。						
<b>□位置付け</b> 聴覚障害のある人たちのコミュニケーション手段を知ることによって、聴覚障害者への理解を深める。コミュニケーションの方法の一つとして手話の基礎技術を習得する。									
<b>□授業の目的</b> 聴覚障害とはどのような聴覚なのかを理解し、支援に際して何をどのようにしていくのかを理解する。コミュニケーション方法の一つとして手話の基礎技術を習得する。									
<b>□授業の到達目標</b> 聴覚障害の方々とどのように関わっていきけるか、手話を通して考え身に付けていく。現場で生かせる技術を身に付ける。介護の現場で役立つ手話を習得する。									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況				10	相手を理解する力、自ら積極的に関わっていく能力を身に付けることを考えます。 手話の基礎技術の習得を評価します。  <b>□学生へのメッセージ</b> まず、出席してください。そして一緒に手を動かし、自分のものにして下さい。授業に出て良かったと思える講義を目指します。				
試験等	提出物		—						
	レポート		—						
	随時試験		—						
	定期試験（実技）		80						
	平常の授業状況（授業中実技）		10						
合計				100%					
<b>□テキスト</b>				<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>					
「やさしい手話」 Gakken				「わたしたちの手話 学習辞典」全日本ろうあ連盟					

#### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	手話とは 挨拶	手話とは 聴覚障害とは 挨拶を手話で表現
2	名前の表現	学生一人一人の名前の表現 知人の名前を表わしてみる
3	指文字	50音の表現方法
4	数字 聴覚障害	数字の表現方法 DVDを見て聴覚障害を考える
5	時制	曜日の表現
6	時制	現在・過去・未来
7	疑問詞	何・どこ・どちら・誰
8	疑問詞	いくつ・いくら・何故・いつ・どうやって
9	日常会話	日常の場面を設定して会話をする
10	日常会話	〃
11	介護の場で使える手話	介護する場面で使える手話を学ぶ
12	現場で使える手話	介護・施設など現場で使える手話を学ぶ
13	自己紹介	自分の事・友人の事が手話で表現できる様にする
14	まとめ	全体のまとめ
15	定期試験	定期試験

科目名	生活支援技術 I			担当教員	平井 範子		単位数	2	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	中学・高等学校で家庭科の教諭として勤務。高齢者の食事について演習を中心に伝える。						
<b>□位置付け</b> 利用者の心身の状況に応じた食事を通して、QOLの向上が図れる。									
<b>□授業の目的</b> 高齢者や障害者などの利用者にとって、安全でかつ円滑に調理ができるようにするために必要な様々な知識を学ぶ。そのためには、調理の基本、栄養学的知識、病気に対する知識、衛生面に対する知識等、多方面にわたる学習が必要だと思われる。 教室で学んだ知識を実際の調理と結びつけて考えることが大切である。									
<b>□授業の到達目標</b> ①バランスのとれた献立作成ができるようにする。 ②いくつかの疾病に対する病人食を理解することができる。 ③それぞれの利用者の状態に応じた調理ができる能力を養う。 ④高齢者等が経験してきた行事食や郷土料理についてもある程度理解できる。 ⑤他の家政学関連等の授業とのつながりを持って思考できるようにする。									
<b>□成績評価の方法</b>				評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>			
出席状況					10	実習の翌週ごとにレポートを提出します。1つでも提出されていない場合は再試験になりますので注意して下さい。教室での授業や実習中も積極的に取り組んで下さい。定期試験は最後に60分で行います。（持込不可） <b>□学生へのメッセージ</b> 必ず、実習前日にもう一度内容に目を通し、ある程度頭の中でイメージ、手順を固めてくること。実習後にも家でやってみて下さい。少しずつの積み重ねが調理が得意になるポイントです。また、グループ学習ですから楽しく、チームワーク良く、失敗を恐れずにやって下さい。			
試験等	提出物				—				
	レポート				15				
	随時試験				—				
	定期試験				65				
	平常の授業状況(授業態度)				10				
その他( )				—					
合計					100%				
<b>□テキスト</b>					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>				
・最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I (中央法規) ・新食品成分表 FOODS (東京法令出版)									

### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	授業の概要	実習に関する諸注意、実習室の見学、次回実習説明
2	献立について	食事摂取基準、料理の組み合わせ
3	実習 1	御飯、清し汁、炒りどり、お浸し
4	基礎	
5	献立作成	食品群別摂取量のめやす、献立の立て方
6	栄養価計算	栄養価計算のやり方、前回レポート提出、次回実習説明
7	実習 2	お粥、鶏すり流し汁、炒り豆腐、ヨーグルトジュース
8	老人介護食	鶏みそ、増粘剤の使用
9	病人食について	老人食、減塩食、糖尿病食、貧血食
10		栄養価計算レポート、前回実習レポート提出
11	実習 3	パン、ポークピッツァソース、ナムル和え
12	減塩食	
13	食品衛生	食中毒
14		前回実習レポート提出
15	定期試験	

科目名	生活支援技術Ⅱ			担当教員	松田 朗		単位数	2	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	3年間の施設介護と20年間の訪問介護の実務経験、15年間の管理職経験、MHSWとして15年間の相談室における心理的支援の実務経験を活かし、心身の状況に応じた支援に必須となる知識と技術の使い方をわかりやすく伝える。						
<b>□位置付け</b> 利用者本位のサービスを提供するため、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解する。 利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。									
<b>□授業の目的</b> ・尊厳の保持や自立支援、「生活の豊かさの観点から本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する									
<b>□授業の到達目標</b> ・ICFの視点を生活支援に活かすための思考非応報を使える。 ・チームアプローチの必要性を説明できる。 ・住環境が人の暮らしに及ぼす影響について論じることができる。 ・福祉用具の重要性を説明できる ・福祉用具を適切に選定できる									
<b>□成績評価の方法</b>				評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>			
出席状況						・毎回の授業で振り返りレポートを作成していただきます。このレポートには出席状況点が含まれます。 ・平常の授業状況は話を聴く姿勢、ペアワークやグループワークへの取り組み方が評価の対象となります。 ・評価の詳細は初回の授業で説明いたします。 <b>□学生へのメッセージ</b> ・遊び心を大切にし、感性を磨きましょう。 ・発想を柔軟にして、たくさん想像しましょう。 ・一緒に学びを楽しみましょう。			
試験等	提出物								
	レポート	50							
	随時試験								
	定期試験	50							
	平常の授業状況(授業態度)								
その他(実技試験)									
合計				100%					
<b>□テキスト</b> 最新 介護福祉士養成講座6 「生活支援技術Ⅰ」 最新版 中央法規					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b> 授業集、適宜ご紹介いたします。				

#### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション/はじめに	授業内容・進め方・成績評価等についての説明/生きることへの支援
2	生活支援の理解	生活支援の基本的な考え方
3		生活支援のポイント/生活支援と介護過程
4		介護過程とICF
5		ICFと利用者主体の生活支援技術
6		生活支援の実践/チームアプローチ
7	振り返り	習熟度チェック
8	居住環境の整備	住まいの役割と機能/生活空間
9		生活空間/快適な室内環境
10		安全に暮らすための生活環境/居住環境の整備と多職種連携
11	振り返り	習熟度チェック
12	福祉用具の意義	生活支援における福祉用具の重要性
13		福祉用具の種類
14		適切ね福祉用具を選ぶための視点/習熟度チェック
15	期末試験	筆記試験

科目名	生活支援技術Ⅲ			担当教員	中嶋 純也		単位数	4	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士及び介護支援専門員として介護施設・事業所に20年勤務。施設及び在宅での介護実務経験をもとに介護実践で大切な根拠ある介護方法についての思考過程の展開について講義する。						
<b>□位置付け</b> 「尊厳の保持」「自立支援」の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、残存能力を活かし潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得するための科目。									
<b>□授業の目的</b> ・介護サービスを提供する対象、場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養う。 ・自立支援の観点から介護実践できる能力を養う。 ・リスクマネジメント等、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。									
<b>□授業の到達目標</b> ・介護実践の根拠を理解し、あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する。 ・介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。 ・利用者本位のサービスを提供するため、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる。 ・利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう、利用者一人ひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につける。									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況				40%	出席状況、提出物、定期（筆記）試験、授業態度、実技試験が評価対象になります。  <b>□学生へのメッセージ</b> 身だしなみ等を整えてください。 整っていない場合は見学になります。				
試験等	提出物			10%					
	レポート			—					
	随時試験			—					
	定期試験			10%					
	平常の授業状況(授業態度)			10%					
その他(実技試験)			30%						
合計				100%					
<b>□テキスト</b>					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>				
最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 第2版(中央法規) 最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第2版(中央法規)					担当教員により随時お知らせします。				

### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	基本となる介護技術とは何か	生活支援技術とは何か 介護の専門性とは何か
2	移動の介護	ボディメカニクスとは何か
3	生活環境の整備	ベッド周囲の環境整備、ベッドメイキング
4	身じたくの介護	身じたくの意義・目的、衣類の着脱の介護
5	〃	衣類の着脱の介護、整容(洗顔、ドライヤーなど)
6	自立に向けた移動の介護	移動の意義・目的 福祉用具の活用
7	〃	移動における生活支援技術(上方・水平移動、側臥位から仰臥位)
8	〃	移動における生活支援技術(起き上がり端座位、端座位から立位)
9	〃	移動における生活支援技術(歩行の介助)
10	〃	移動における生活支援技術(車いすの移動・移乗の介助)
11	〃	〃
12	事例検討	前期の生活支援技術の振り返り
13	〃	〃
14	実技試験	介護手順・技術の確認
15	〃	〃

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	清潔保持の意義と目的、入浴の意義と目的
17	〃	入浴における生活支援技術（機械浴）
18	〃	〃
19	自立に向けた食事の介護	食事における生活支援技術（環境・自助具・とろみなど）
20	〃	食事における生活支援技術（利用者に応じた食事の介助）
21	〃	〃
22	自立に向けた排泄の介護	排泄における生活支援技術（ベッド上でのおむつ交換の介助）
23	〃	排泄における生活支援技術（立位でのパット交換、尿器・便器）
24	〃	排泄における生活支援技術（ポータブルトイレでの介助）
25	〃	排泄における生活支援技術（車いす利用者の介助）
26	〃	〃
27	総合的な振り返り	実習に向けた生活支援技術の振り返り
28	実技試験	介護手順・技術の確認
29	実技試験	〃
30	定期試験	筆記試験

科目名	介護過程 I			担当教員	中嶋 純也		単位数	4	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士及び介護支援専門員として介護施設・事業所に20年勤務。施設及び在宅での介護実務経験をもとに介護実践で大切な根拠ある介護方法についての思考過程の展開について講義する。						
<b>□位置付け</b> 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。									
<b>□授業の目的</b> ①介護を必要とする人の生活をどのように支援しなければならないのか展開方法を理解する。 ②利用者を知るための情報を、様々な項目・方法で引き出すことの手法を習得する。 ③利用者を支えるためのチームによるケアの適切な支援の提供について学ぶ。									
<b>□授業の到達目標</b> ①介護過程の展開が利用者の個別ケア実践になぜ必要なのか理解できる。 ②利用者の全体像を把握する観察力（客観的情報・主観的情報）を身につけることができる。 ③利用者にかかわる介護福祉職と関係職種が共通の目標をもってケアを実践する。									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況				30	出席状況、提出物、定期試験、授業態度すべて評価に含まれます。特に提出物は提出期限、授業態度はルールを厳守してください。評価の詳細は、初回の授業にて説明します。  <b>□学生へのメッセージ</b> この授業は、それぞれの思い、感じたことを言葉にして、お互いの情報を共有するところから始まります。ぜひ、全員参加をしながら授業に取り組んでいきましょう。				
試験等	提出物			40					
	レポート								
	随時試験								
	定期試験			20					
	平常の授業状況 ( )			10					
その他 ( )									
合計				100%					
<b>□テキスト</b> 最新 介護福祉士養成講座 9 第2版 介護過程 (中央法規)					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b> 担当教員により随時ご紹介いたします。				

#### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	シラバス説明・これからの授業の進め方など
2	介護過程とは	介護過程のイメージ作り① (事例検討)
3		介護過程のイメージ作り② (事例検討)
4		介護過程の意義・目的①
5		介護過程の意義・目的② (事例検討)
6		介護過程の全体像①
7		介護過程の全体像② (事例検討)
8	生活支援における介護過程の必要性	生活支援における介護過程の意義①
9		生活支援における介護過程の意義② (事例検討)
10	介護過程の理解	アセスメントの思考の方法①
11		アセスメントの思考の方法② (事例検討)
12		アセスメントの視点の提示①
13		アセスメントの視点の提示② (事例検討)
14		介護過程の展開 (アセスメントの整理)
15	定期試験	筆記試験

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	介護過程の展開	介護過程のプロセス
17	アセスメント	情報収集①
18		情報収集②（事例検討）
19		情報収集③（事例検討）
20		情報収集④（事例検討）
21		情報収集⑤（事例検討）
22		時代背景を調べる①
23		時代背景を調べる②
24		時代背景を調べる③
25	アセスメント	解釈・関連付け・統合化①
26		解釈・関連付け・統合化②（事例検討）
27		解釈・関連付け・統合化③（事例検討）
28	ケーススタディ	ケーススタディ発表会①（2年生の研究発表会参加）
29		ケーススタディ発表会②（2年生の研究発表会参加）
30	定期試験	レポート

科目名	介護総合演習 I			担当教員	中嶋・渡辺・松田		単位数	4	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士として介護保険施設及び在宅介護での20年に及ぶ実務経験をもとに介護実践の知識と技術を伝える。						
<b>□位置付け</b> 介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。質の高い介護実践やエビデンスの構築に繋がる実践研究の意義とその方法を理解する。									
<b>□授業の目的</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護サービスを提供する対象、場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養う。</li> <li>多職種協働やケアマネジメントなどの制度の仕組みを踏まえ、具体的な事例について介護過程を展開できる能力を養う。</li> </ul>									
<b>□授業の到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護実習の重要性について理解できる。</li> <li>介護実習に向けての心構え、予備知識、動機づけ等の準備ができる。</li> <li>介護実習を通じて学校内で学んだ知識、技術、態度を具体的かつ実際に理解できるようになる。</li> <li>習得した学内諸学習を応用し、実践的な技術等を身につけられる。</li> <li>介護福祉士としての自覚ができ、専門職に求められる資質、技能及び自己に求められる課題把握等、総合的対応力を取得できる。</li> </ul>									
<b>□成績評価の方法</b>				評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>			
出席状況					50	定期試験としての筆記や実技の試験はありませんが、出席状況、提出物、レポート、授業態度で評価されます。提出物、レポート等は担当教員からの説明をよく聞き指示に従ってください。  <b>□学生へのメッセージ</b> 介護総合演習は介護実習が充実した意義のあるものにするための授業です。			
試験等	提出物				30				
	レポート				—				
	随時試験				—				
	定期試験				20				
	平常の授業状況(授業態度)				—				
その他 ( )				—					
合計					100%				
<b>□テキスト</b>					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 第2版(中央法規)</li> <li>介護実習の手引き</li> </ul>					担当教員より随時ご紹介します。				

### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	介護総合演習でなにを学ぶか	介護総合演習の位置づけと目的
2	介護実習の枠組みと全体像	介護実習準備、実習中・実習後の学び
3	介護実習 I オリエンテーション	介護実習 I の目的・意義
4	〃	介護実習 I の目標と個人の目標
5	〃	介護実習 I の流れ
6	記録の意義・目的	実習記録(日誌)の目的と必要性
7	実習に向けた事前学習	介護実習 I に関連した事前学習
8	介護実習 I オリエンテーション	実習資料の確認・準備
9	〃	実習の心構え 介護実習 I の進め方、取り組み方
10	介護実習 I 帰校日	実習巡回教員による個別指導
11	〃	実習巡回教員による個別指導
12	介護実習 I の報告	介護実習 I で得た学びの共有
13	〃	〃
14	介護実習 I の振り返りと評価	実習の資料整理と自己評価を行い次回の目標設定
15	定期試験	レポート

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	地域密着型介護実習オリエンテーション	地域密着型介護実習の目的・意義、目標と個人の目標
17	〃	実習の心構え 地域密着型介護実習の進め方、取り組み方
18	介護実習Ⅱオリエンテーション	介護実習Ⅱの目的・意義、目標と個人の目標
19	介護実習Ⅱにおける介護過程の展開	アセスメントの意義・視点とは何か
20	〃	〃
21	記録の意義・目的	介護実習Ⅱにおける実習記録（日誌）の目的と必要性
22	〃	介護実習Ⅱに関連した事前学習
23	介護実習Ⅱオリエンテーション	実習資料の確認・準備
24		実習の心構え 介護実習Ⅱの進め方、取り組み方
25	介護実習Ⅱ 帰校日	実習巡回教員による個別指導
26	〃	〃
27	介護実習Ⅱの報告	介護実習Ⅱで得た学びの共有
28	〃	〃
29	介護実習Ⅱの振り返りと評価	実習の資料整理と自己評価を行い次回の目標設定
30	定期試験	レポート

科目名	介護実習 I			担当教員	松田・中嶋・濱野・渡辺		単位数	2	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	実習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士として介護保険施設及び在宅介護での20年に及ぶ実務経験をもとに介護実践の知識と技術を伝える。						

**□位置付け**

地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う。

**□授業の目的**

実習は、介護の実践を学ぶ場であり、専門職業人としての自己形成の場でもある。介護の実体験を通して、領域「人間と社会」で学んだ人間の尊厳や、領域「こころとからだのしくみ」で学んだ介護に必要なからだのしくみなど、これまでの学習内容を統合させて、介護とは何かを理解・再確認し、それを実践する基礎的能力を習得する。

**□授業の到達目標**

- ・コミュニケーションをとり、利用者および職員と人間関係を築くことができる。
- ・利用者の生活に関心を持ち、生活環境や1日の過ごし方を知る。
- ・安全と安楽に留意し、基本的介護技術を体験する（見学を含む）。
- ・実習生の視点から観察、記録、報告ができる。自分の体験を、記録を通し考察することができる。
- ・実習施設の概要、実習施設の特性を知る。介護職の役割と業務内容を理解する。

**□成績評価の方法**

評価項目

割合

出席状況	60	
試験等	提出物	—
	レポート	—
	随時試験	—
	定期試験	—
	平常の授業状況（実習の状況）	40
その他（ ）	—	
合計	100%	

**□成績評価に関するコメント**

- ・介護実習の継続が困難と認められる場合、実習を中止し、単位認定をしない場合があります。
- ・その他、習得すべき内容が伴わない場合は、単位認定をしない場合があります。

**□学生へのメッセージ**

介護実習は利用者、実習施設、指導者等の協力があって成立します。ルールを守り、欠席しないよう調整してください。実習期間中は巡回担当教員が定期的に指導を行います。何でも遠慮なく相談してください。

**□テキスト**

- ・最新 介護福祉士養成講座10  
介護総合演習・介護実習 第2版（中央法規）
- ・介護実習の手引き

**□参考図書・資料・参考ホームページ**

**□授業計画**

回数	テーマ	授業の内容、進め方
	介護実習 I (8日間)	オリエンテーション（実習前もしくは実習初日に実施される） コミュニケーション 生活支援技術（身じたくの介護） 〃（移動の介護） 〃（食事の介護） 〃（入浴・清潔保持の介護） 〃（排泄の介護） 〃（睡眠の介護） レクリエーション ※コミュニケーション、生活支援技術等は利用者とのかかわりや介護の実践を通して繰り返し学んでいく。
		※上記の項目は実習内容である。ただし、実習先のスケジュールに従い内容は変更されることがある。
		24時間の利用者の生活状況を把握するため、実習は日中の時間帯だけでなく早番・遅番などの変則勤務（実習）を体験することがある。

科目名	介護実習Ⅱ		担当教員	松田・中嶋・濱野・渡辺		単位数	5		
対象学科	介護福祉		学年	1年	授業形態	実習	法令等指定	○	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士として介護保険施設及び在宅介護での20年に及ぶ実務経験をもとに介護実践の知識と技術を伝える。						

**□位置付け**

地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う。

**□授業の目的**

実習は、介護の実践を学ぶ場であり、専門職業人としての自己形成の場でもある。介護の実体験を通して、領域「人間と社会」で学んだ人間の尊厳や、領域「こころとからだのしくみ」で学んだ介護に必要なからだのしくみなど、これまでの学習内容を統合させて、介護とは何かを理解・再確認し、それを実践する基礎的能力を習得する。

**□授業の到達目標**

- ・コミュニケーション等により利用者が気持ちや考えを表現できるようなかかわりができる。
- ・利用者の生活背景、心身の状況など、全体像を把握する。
- ・安全と安楽に留意し、基本的介護技術を体験する。利用者の状況に応じた介護技術を工夫できる。
- ・利用者の個別性について観察、記録、報告ができる。介護過程展開の基礎を学ぶ。
- ・実習施設の概要を踏まえ、施設の役割と機能を理解できる。
- ・関係職種の役割を理解し、連携のあり方を学ぶ。

**□成績評価の方法**

評価項目

割合

出席状況	60	
試験等	提出物	—
	レポート	—
	随時試験	—
	定期試験	—
	平常の授業状況（実習の状況）	40
その他（ ）	—	
合計	100%	

**□成績評価に関するコメント**

・介護実習の継続が困難と認められる場合、実習を中止し、単位認定をしない場合があります。  
・その他、習得すべき内容が伴わない場合は、単位認定をしない場合があります。

**□学生へのメッセージ**

介護実習は利用者、実習施設、指導者等の協力があって成立します。ルールを守り、欠席しないよう調整してください。実習期間中は巡回担当教員が定期的に指導を行います。何でも遠慮なく相談してください。

**□テキスト**

- ・最新 介護福祉士養成講座10  
介護総合演習・介護実習 第2版（中央法規）
- ・介護実習の手引き

**□参考図書・資料・参考ホームページ**

**□授業計画**

回数	テーマ	授業の内容、進め方
	介護実習Ⅱ	オリエンテーション（実習前もしくは実習初日に実施される）
	(19日間)	コミュニケーション
		生活支援技術（身じたくの介護）
		〃（移動の介護）
		〃（食事の介護）
		〃（入浴・清潔保持の介護）
		〃（排泄の介護）
		〃（睡眠の介護）
		〃（看取りの介護）
		レクリエーション
		介護過程展開の基礎（1人の利用者の全体像をとらえる、ニーズが把握できる）
		※上記の項目は実習内容である。ただし、実習先のスケジュールに従い内容は変更されることがある。
		24時間の利用者の生活状況を把握するため、実習は日中の時間帯だけでなく遅番・早番・夜勤などの変則勤務（実習）を体験することがある。

科目名	こころとからだのしくみ I			担当教員	渡辺 愛子		単位数	4	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師として急性期病棟に24年勤務。脳神経外科・消化器外科・循環器科等の実務経験から、人体はイメージできると興味が深まり記憶に残りやすい。説明はイラストや模型を多く使用し、なぜ介護福祉に解剖知識が必要なのかを伝える。						
<input type="checkbox"/> 位置付け 介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する。									
<input type="checkbox"/> 授業の目的 この科目では、心と体の両面から利用者の状態を見て、その状態がどのような要因から引き起こされているのか、その根拠となる知識について学ぶ。また、残存能力・潜在能力を引き出し、利用者の尊厳の尊重と自立を支援するための適切な介護方法を導き出す。									
<input type="checkbox"/> 授業の到達目標 1. 人間の基本的な心と体のしくみについて理解する 2. 身じたく及び排泄に関連した心と体のしくみについて理解する。 3. 身じたく及び排泄に関連した心と体の変化について理解し、利用者の状態の変化に気づくことができるようになる。また、医療職との連携について理解する。									
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法		評価項目	割合	<input type="checkbox"/> 成績評価に関するコメント					
出席状況				・提出物、レポートは提出期限を厳守することも評価に含まれます。評価の詳細は初回の授業で説明します。					
試験等	提出物		20	<input type="checkbox"/> 学生へのメッセージ ・授業で覚えたことを誰かに話すと記憶への定着が上がります。科学的根拠に基づいた言葉は、周囲を説得でき信頼も得られます。知識に自信が持てるよう一緒に楽しく学んでいきましょう。					
	レポート		30						
	随時試験		20						
	定期試験		30						
	平常の授業状況(授業態度)								
その他 ( )									
合計			100%						
<input type="checkbox"/> テキスト				<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ					
最新 介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ (中央法規)				適宜紹介します					

#### 授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	「健康」とは何か	オリエンテーション、健康の定義、健康観、病気概念
2	からだのしくみを理解する	体の部位の役割細胞 / 遺伝、身体各部の名称、内臓の名称
3		体の部位の役割細胞 / 脳・神経
4		体の部位の役割細胞 / 感覚器 (視覚器・平衡感覚器)
5		体の部位の役割細胞 / 感覚器 (嗅覚器・味覚器・皮膚)
6		体の部位の役割細胞 / 呼吸器
7		体の部位の役割細胞 / 循環器
8		体の部位の役割細胞 / 消化器 (消化管)
9		体の部位の役割細胞 / 消化器 (消化腺)
10		体の部位の役割細胞 / 泌尿器
11		体の部位の役割細胞 / 骨・関節・筋肉・神経系
12		体の部位の役割細胞 / 生殖器
13		体の部位の役割細胞 / 内分泌
14	定期試験	筆記試験
15	からだのしくみを理解する	体の部位の役割細胞 / 血液・体液・リンパ・心身の調和・薬の知識

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	こころのしくみを理解する	人間の欲求とは 自己実現と尊重
17		こころのしくみの基礎
18		〃
19		〃
20	身じたくに関連したしくみ	身じたくのしくみ
21		〃
22		心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響
23		〃
24		身じたくにおける観察ポイントと対応 医療職との連携
25	排泄に関連したしくみ	排尿のしくみ
26		心身の機能低下が排尿に及ぼす影響
27		排便のしくみ
28		心身の機能低下が排便に及ぼす影響
29		排泄における観察ポイントと対応 医療職との連携
30	定期試験	筆記試験

科目名	発達と老化の理解 I			担当教員	笠倉 賢一		単位数	2	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	鍼灸師、按摩マッサージ指圧師の資格があり、現在は理学療法士として病院・クリニックで20年勤務。自身の経験をもとに高齢者にみられる疾病や生活支援の知識を伝える。						
<input type="checkbox"/> 位置付け 老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や、高齢者に多く見られる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を理解する。									
<input type="checkbox"/> 授業の目的 ①老化にともなう身体的な変化と生活への影響を理解する。 ②高齢者と健康に関する基礎知識を習得する。									
<input type="checkbox"/> 授業の到達目標 老化を理解し、老化にともなう心理や身体機能の変化およびその特徴に関する基礎的な知識を習得する。									
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				評価項目	割合	<input type="checkbox"/> 成績評価に関するコメント			
出席状況					10	・基本的には期末試験で評価しますが、出席や授業態度も加味する。			
試験等	提出物					<input type="checkbox"/> 学生へのメッセージ			
	レポート					専門用語が多い授業です。			
	随時試験					わからない語句は「こころとからだのしくみ」のテキストを活用し、調べる習慣をつけましょう。			
	定期試験				80	実際の画像をパワーポイントを使用して説明します。			
	平常の授業状況(授業態度)				10				
その他( )									
合計					100%				
<input type="checkbox"/> テキスト					<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ				
最新 介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解 第2版(中央法規出版)									

#### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション 老化に伴う心と身体の変化と生活①	授業の説明、評価について 加齢による生理機能の全体的低下
2	老化に伴う心と身体の変化と生活②	身体的機能の低下と日常生活への影響(骨格系～呼吸器系)
3	老化に伴う心と身体の変化と生活③	身体的機能の低下と日常生活への影響(消化器系～免疫系)
4	健康長寿に向けての健康	平均余命と健康寿命
5	高齢者の症状・疾患の特徴	高齢者の症状・疾患の特徴と特有な症状
6	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点①	骨格・筋系①
7	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点②	骨格・筋系②
8	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点③	脳神経系/皮膚・感覚器系
10	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点④	循環器系・呼吸器系
11	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑤	消化器系・腎・泌尿器系
12	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑥	内分泌・代謝系/歯・口腔疾患/悪性新生物(がん)
13	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑦	感染症/精神疾患/その他
14	保健医療職種との連携	医療職との連携について
15	期末試験	定期試験

科目名	認知症の理解			担当教員	大川 直人		単位数	4	
対象学科	介護福祉			学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士として、介護事業所で15年以上勤務。現場では、生活相談員、介護支援専門員、管理者、施設長などを歴任し、現在は、法人本部にて、法人経営に係る企画、立案を統括する立場として勤務している。 認知症の方の理解を事例や視覚教材を使用して分かりやすく伝える。						
<b>□位置付け</b> 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に捉え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するため基礎的知識を習得する。									
<b>□授業の目的</b> 授業の大きな目的は「その人と向き合うことの実現」で、認知症の症状やその背景などは講義を中心に学びます。また、自らが考え、気づくことができるための思考プロセスの体得を目指します。 在宅介護、施設介護を問わず、介護福祉士が活躍する場面において、認知症状のある方の意思決定を支援する場面がたくさん生じます。その際、介護福祉士として求められる専門性を発揮し、適切な対応をとることが期待されます。 認知症状等に関する専門性の基礎を学び、そこから「考える」力を身に付けていきましょう。また、個人ワークやグループワーク、映像学習を通して、様々な「気づき」を得ていきましょう。									
<b>□授業の到達目標</b> 認知症の基礎を十分に理解し、適切な観察と洞察の視点を身につけ、対象者（利用者）の思いに寄り添った支援を実践できるようになりましょう。 また、入職した後にも、授業で学んだことと実際の現場で感じるであろう、ギャップや疑問についての乗り越えかたや整理方法などを学ぶようにしましょう。									
<b>□成績評価の方法</b>		評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>					
出席状況			20	講義の内容から、知識の習熟度の効果測定を行います。その際、提出物やレポートの提出を求めます。 また、授業への参加態度や意見の有無についても評価していきます。 主体的な姿勢で臨みましょう。  <b>□学生へのメッセージ</b> 積極的に授業に参加してください。授業中は対話を通じて皆さんの意見や感想を求めます。					
試験等	提出物		10						
	レポート		10						
	随時試験		—						
	定期試験		30						
	平常の授業状況（主体性）		30						
		その他（ ）	—						
合計			100%						
<b>□テキスト</b> 最新 介護福祉士養成講座13 認知症の理解 (中央法規出版)				<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b> 現場でも、よく使われるリーフレットなどは、逐次コピーなどしてお渡しいたします。					

### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	認知症とは何か	講義と演習
2	〃	
3	脳の仕組み	講義と演習
4	〃	
5	認知症の人の心理	講義と演習
6	〃	
7	中核症状の理解	講義と演習
8	〃	
9	生活障害の理解	講義と演習
10	〃	
11	BPSDの理解	講義と演習
12	認知症の診断と重症度	講義と演習
13	認知症の原因疾患と症状・生活障害	講義と演習
14	〃	
15	認知症の治療薬	講義と演習

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	認知症の予防	講義と演習
17	認知症を取り巻く状況	講義と演習
18	〃	
19	認知症ケアの理念と視点	講義と演習
20	〃	
21	認知症当事者の視点からみえるもの	講義と演習
22	〃	
23	認知症ケアの実際	講義と演習
24	〃	
25	環境づくり	講義と演習
26	介護者支援	講義と演習
27	認知症の人の地域生活支援	講義と演習
28	まとめ	講義
29	定期試験	筆記試験
30	定期試験	筆記試験

科目名	医療的ケア I			担当教員	渡辺 愛子		単位数	4	
対象学科	介護福祉科			学年	1年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	看護師として急性期病棟に24年勤務。脳神経外科・消化器外科・循環器科等の実務経験から、人体はイメージできると興味が深まり記憶に残りやすい。説明はイラストや模型を多く使用し、なぜ介護福祉に解剖知識が必要なのかを伝える。						
<b>□位置付け</b> 医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。									
<b>□授業の目的</b> 1. 医療的ケアの基礎を学ぶ 2. 喀痰吸引の基礎知識と実施手順を理解し実施できる 3. 経管栄養の基礎知識と実施手順を理解し実施できる									
<b>□授業の到達目標</b> 1. 医療的ケアについて説明できる 2. 安全な療養生活を説明できる 3. 清潔保持と感染予防について説明できる 4. 健康状態の把握ができる 5. 急変時の状態と対応がわかり報告について説明できる 6. 心肺蘇生の必要性が判断でき実施できる 7. AEDの基本操作ができる 8. 呼吸のしくみとはたらきを理解し、喀痰吸引の必要性や留意点が説明できる 9. 喀痰吸引に必要な物品が準備でき、適切安全に実施できる 10. 消化のしくみとはたらきを理解し、経管栄養の必要性や留意点が説明できる 11. 経管栄養に必要な物品が準備でき、適切安全に実施できる 12. 実施後の利用者の状態を観察し報告ができる									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況					・レポートは提出期限を厳守することも評価に含まれます。 ・評価の詳細は初回の授業で説明します。 ・出席前提の科目です。演習(★印)を欠席した場合は補習対応になるので注意してください。				
試験等	提出物		20	<b>□学生へのメッセージ</b> ・医療的ケアは医療行為を含みます。あなたはどんな人から「医療行為」を受けたいですか？不安のない行為には基礎知識が重要で、科学的根拠をもった行為は自分も相手も守り、安心できます。医療分野を一緒に楽しく学んでいきましょう。					
	レポート		30						
	随時試験								
	定期試験		50						
	平常の授業状況 ( )								
	その他 ( )								
合計				100%					
<b>□テキスト</b> 最新 介護福祉士養成講座15 医療的ケア(中央法規)					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b> 適宜紹介します				

### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	医療的ケア実施の基礎	★【演習室】オリエンテーション 医療的ケアの始まりと目的
2	人間と社会	医療の倫理 医行為とは
3	保険医療制度とチーム医療	介護福祉士が行う医療的ケアの目的
4		チーム医療と介護職員との連携
5	安全な療養生活	安全とは 療養生活とは ヒヤリハットとアクシデント
6		ヒヤリハットとアクシデントの書き方 危険予測
7		★【演習室】心肺蘇生が必要なとき 心肺蘇生の手順と留意点
8		★【演習室】AEDの使用方法(実技チェック1回)
9	清潔保持と感染予防	清潔とは 感染とは 標準予防策(スタンダードプリコーション)
10		★【演習室】職員の感染予防
11	健康状態の把握	健康の概念 身体・精神の健康
12		健康状態を知る項目(バイタルサインなど) 正常値と異常
13		★【演習室】バイタル測定
14		
15	定期試験	筆記試験

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	高齢者及び障害児・者の 喀痰吸引概論	呼吸のしくみとはたらき
17		子どもの吸引
18		利用者の呼吸状態の観察（回数・音・姿勢・苦しさ） 痰のしくみ、観察ポイント（色・粘稠性・におい）
19		利用者への説明と同意
20		観察ポイントと注意点（鼻腔・口腔・気管カニューレ）
21		★【演習室】喀痰吸引の必要物品、実施手順
22		定期試験
23	高齢者及び障害児・者の 喀痰吸引概論	★【演習室】喀痰吸引演習
24	高齢者及び障害児・者の 経管栄養概論	経管栄養とは 経鼻栄養法の種類（経鼻経管栄養・胃ろう） 経管栄養で使用される栄養剤
25		子どもの経管栄養における留意点
26		経管栄養により生じる危険
27		経管栄養実施の観察ポイント（経鼻経管栄養・胃ろう）
28		★【演習室】経管栄養の必要物品、実施手順
29		定期試験
30	高齢者及び障害児・者の 経管栄養実施手順解説	経管栄養実施の観察ポイント ★【演習室】経管栄養演習

科目名	介護福祉ゼミⅠ		担当教員	松田 朗		単位数	2		
対象学科	介護福祉		学年	1年	授業形態	演習	法令等指定		
履修方法	登録指定科目	科目内容	関連科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	3年間の施設介護と20年間の訪問介護の実務経験、15年間の管理職経験、MHSWとして15年間の相談室における心理的支援の実務経験を活かし、心身の状況に応じた支援に必須となる知識と技術の使い方をわかりやすく伝える。						
<b>□位置付け</b> 生涯学習に向けた自己学習の仕方を養い、学びを楽しむ力と学習習慣の涵養を目指す科目。									
<b>□授業の目的</b> ①介護福祉士として「共有」「協働」「創造」「満足解思考」ができるようになるための基盤となる、 学び方と心構えを修得する。 ②相手に伝わる表現力の習得を目指す。 ③介護福祉士として、健康で生き生きと働き続けるための心構えをつくる。									
<b>□授業の到達目標</b> ①自分に適した学び方を創ることができる。 ②意図的に「よく観る」「よく聴く」「受け入れる」「楽しむ」「分かち合う」ことができる。 ②「役割」や「思考」と「存在」を分けることの意義を説明できる。									
<b>□成績評価の方法</b>		評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>					
出席状況			-	・毎回の授業で振り返りレポートを作成していただきます。このレポートには出席状況点が含まれます。					
試験等	提出物		-	・評価の詳細は初回の授業で説明いたします。					
	レポート		50	<b>□学生へのメッセージ</b>					
	随時試験		-	・遊び心を大切に、感性を磨きましょう。					
	定期試験		50	・発想を柔軟にして、たくさん想像しましょう。					
	平常の授業状況(授業態度)		-	・一緒に学びを楽しみましょう。					
その他( )			-	・メアド matsuda.akira@wasedasokki.jp					
合計			100%						
<b>□テキスト</b> その都度、資料を配布します。				<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b> 「分かり合えないことから」平田オリザ著 「学び方がわかる本」L.ロン ハバード原作 他					

### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	授業内容解説/評価方法解説/「介護を楽しむ」「役割を楽しむ」
2	「楽しむ」「楽しめない」	「楽しみ方」と「楽しめない」には理由・・・/グループワーク
3	「学ぶ」	「学び方」のコツを知っていると・・・/グループワーク
4	「想像する」「創造する」	頭の中に生まれたものを繋げると・・・/グループワーク
5	「感覚を磨く」①	「よく観る」「よく聴く」「分かち合う」から・・・/グループワーク
6	「感覚を磨く」②	「よく観る」「よく聴く」「分かち合う」から・・・/グループワーク
7	「感覚を磨く」③	「よく観る」「よく聴く」「分かち合う」から・・・/グループワーク
8	実習のこと「確かめる」	第1段階と地域密着実習で気になったことは・・・/グループワーク
9	「確かめる」「考える」	「情報を集める」「確かめる」「仮説を創る」ことにチャレンジ/チーム
10	「考える」「決める」	「仮説」から「発表」への準備にチャレンジ/チームワーク
11	「発表する」「確かめる」	自他のチームの発表から「誤り」を見つけて「修正」する/チーム
12	「確かめる」「考える」	新たな「仮説」から「次：next」を生む/チームワーク
13	「決める」	修正版を創りあげる/チームワーク
14	「発表する」	「批評」する
15	期末試験	レポート提出

介 護 福 祉 科      2 年 生

介護福祉科 2022年度生カリキュラム

科目区分		領域	教育内容	科目名	授業形態	1年次		2年次		合計		介護福祉士受験資格	
履修方法	科目内容					単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数		
登録指定科目	基礎科目	人間と社会	人間の尊厳と自立	人間の尊厳と自立	講義	2	30			2	30	○	
			人間関係とコミュニケーション	人間関係とコミュニケーションⅠ	人間関係とコミュニケーションⅠ	講義	2	30			2	30	○
				人間関係とコミュニケーションⅡ	人間関係とコミュニケーションⅡ	講義	2	30			2	30	○
			社会の理解	社会の理解Ⅰ	社会の理解Ⅰ	講義	4	60			4	60	○
				社会の理解Ⅱ	社会の理解Ⅱ	講義			2	30	2	30	○
				日本文化論	日本文化論	講義	2	30			2	30	○
		情報と社会		情報と社会	講義	2	30			2	30	○	
		介護	介護の基本	介護の基本Ⅰ	介護の基本Ⅰ	講義	2	30			2	30	○
				介護の基本Ⅱ	介護の基本Ⅱ	講義	4	60			4	60	○
				介護の基本Ⅲ	介護の基本Ⅲ	講義			2	30	2	30	○
				介護の基本Ⅳ	介護の基本Ⅳ	講義			3	45	3	45	○
				介護の基本Ⅴ	介護の基本Ⅴ	講義			2	30	2	30	○
	コミュニケーション技術		コミュニケーション技術Ⅰ	コミュニケーション技術Ⅰ	講義	2	30			2	30	○	
			コミュニケーション技術Ⅱ	コミュニケーション技術Ⅱ	講義	2	30			2	30	○	
	生活支援技術		生活支援技術Ⅰ	生活支援技術Ⅰ	演習	2	30			2	30	○	
			生活支援技術Ⅱ	生活支援技術Ⅱ	演習	2	30			2	30	○	
			生活支援技術Ⅲ	生活支援技術Ⅲ	演習	4	60			4	60	○	
			生活支援技術Ⅳ	生活支援技術Ⅳ	演習			4	60	4	60	○	
			生活支援技術Ⅴ	生活支援技術Ⅴ	演習	2	30			2	30	○	
			生活支援技術Ⅵ	生活支援技術Ⅵ	演習	2	30			2	30	○	
			生活支援技術Ⅶ	生活支援技術Ⅶ	演習			4	60	4	60	○	
	介護過程		介護過程Ⅰ	介護過程Ⅰ	演習	4	60			4	60	○	
			介護過程Ⅱ	介護過程Ⅱ	演習			4	60	4	60	○	
			介護過程Ⅲ	介護過程Ⅲ	演習			2	30	2	30	○	
	介護総合演習		介護総合演習Ⅰ	介護総合演習Ⅰ	演習	4	60			4	60	○	
			介護総合演習Ⅱ	介護総合演習Ⅱ	演習			4	60	4	60	○	
	介護実習		介護実習Ⅰ	介護実習Ⅰ	実習	3	90			3	90	○	
			介護実習Ⅱ	介護実習Ⅱ	実習	5	150			5	150	○	
			介護実習Ⅲ	介護実習Ⅲ	実習			6	180	6	180	○	
			介護実習Ⅳ	介護実習Ⅳ	実習			1	30	1	30	○	
	こころとからだのしくみ		こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅠ	こころとからだのしくみⅠ	講義	4	60			4	60	○
		こころとからだのしくみⅡ		こころとからだのしくみⅡ	講義			4	60	4	60	○	
		障害の理解	障害の理解	講義	4	60			4	60	○		
		発達と老化の理解	発達と老化の理解Ⅰ	発達と老化の理解Ⅰ	講義			2	30	2	30	○	
			発達と老化の理解Ⅱ	発達と老化の理解Ⅱ	講義			2	30	2	30	○	
		認知症の理解	認知症の理解	講義			4	60	4	60	○		
		医療的ケア	医療的ケア	医療的ケアⅠ	医療的ケアⅠ	講義	5	75			5	75	○
	医療的ケアⅡ			医療的ケアⅡ	演習			1	15	1	15	○	
	科関連		介護福祉ゼミⅠ	介護福祉ゼミⅠ	演習	2	30			2	30		
			介護福祉ゼミⅡ	介護福祉ゼミⅡ	演習			2	30	2	30		
			介護福祉事務	介護福祉事務	講義			2	30	2	30		
	合計						67	1,125	51	870	118	1,995	

※介護福祉科の卒業には、修業年限以上在学し、介護福祉士資格取得に必要な全教科の単位を修得し、かつ1700時間相当の単位数の修得が必要

科目名	社会の理解Ⅱ			担当教員	星野 有史		単位数	2	
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	基礎科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員		実務経験 内容							
<input type="checkbox"/> 位置付け 対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する。									
<input type="checkbox"/> 授業の目的 個人が尊重される社会にあつて児童・高齢者虐待、障害者差別、貧困など、さまざまな福祉問題が存在しています。介護福祉士には介護の専門技術と共に、信頼を築くコミュニケーション、心理・社会的洞察力が必要です。『社会の理解Ⅱ』では福祉専門職の共通基盤に立ち、支援の過程、他専門職との連携など、介護問題を取り上げ実践力・応用力を身に付けていきます。									
<input type="checkbox"/> 授業の到達目標 1. 要介護者・家族を受容し、個別化・自己決定にそつた介護を実践していくためのコミュニケーション技術を修得することができる。 2. 介護施設などで活用できるグループ支援（プログラム展開）ができるようになる。 3. 地域包括ケアを推進していくために求められる組織化の技術とケアマネジメントを学ぶことにより、チーム連携するうえでの知識を得ることができる。									
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法				評価項目	割合	<input type="checkbox"/> 成績評価に関するコメント			
出席状況					—	<input type="checkbox"/> 成績評価に関するコメント 介護福祉士には制度の理解と共に、人権擁護、関係形成、生活問題を捉える視点が求められます。したがってレポート試験に加え、課題の提出、授業参画度などを合わせて評価します。出席状況は評価の前提です。 <input type="checkbox"/> 学生へのメッセージ 文献による知識の修得は勿論のこと、関連する情報に触れたり、ボランティア活動や福祉対象者と関わるなど、体験的に学ぶ時間を作ってください。授業は事例検討が中心ですので積極的な発言をお願いします。			
試験等	提出物				30				
	レポート				50				
	随時試験				—				
	定期試験				—				
	平常の授業状況(授業態度)				20				
その他( )				—					
合計					100%				
<input type="checkbox"/> テキスト					<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ				

#### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	福祉専門職の援助過程	介護に必要な援助技術を体系的に理解します
2	関係形成の原則	信頼を築くコミュニケーションについて学びます
3	家族支援	家族の移り変わりとう子化問題について考えます
4	現代社会と家族問題	虐待防止に対する地域と行政の役割を検討します
5	居宅介護サービス	支援の個別性と家族関係の調整について考えます
6	地域生活とケアマネジメント	地域包括ケアシステムの課題について検討します
7	地域組織化活動	地域の問題解決に向けたプロセスを学びます
8	福祉コミュニティの課題	地域共生社会における行政と住民の役割を考えます
9	グループ支援	集団力学と支援の方法について学びます
10	プログラムの実施過程	グループ支援からダイバーシティの課題を見ます
11	施設介護サービス	情報収集とアセスメントを通して問題を分析します
12	施設介護と人権	集団生活と自由・個人の尊厳について学びます
13	障害者支援	自立生活とノーマライゼーションについて考えます
14	地域生活支援とバリアフリー	障害者の生活実態を知るための地域観察を行います
15	アクセシビリティと生活環境	AI技術や情報システムから支援の可能性を考えます

科目名	介護の基本Ⅲ			担当教員	松田 朗		単位数	2	
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	3年間の施設介護と20年間の訪問介護の実務経験、15年間の管理職経験、MHSWとして15年間の相談室における心理的支援の実務経験を活かし、心身の状況に応じた支援に必須となる知識と技術の使い方をわかりやすく伝える。						
<b>□位置付け</b> ICFに基づくアセスメントを理解し、個々の状態に応じた自立支援をするための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を理解する。 介護における安全の確保とリスクマネジメント、介護従事者の安全について理解する。									
<b>□授業の目的</b> ① ICFに基づいた自立支援と介護予防を実践するための基盤をつくる。 ② 生きがいのある生活を営むための支援として、レクリエーションを提案できる。									
<b>□授業の到達目標</b> ① アセスメントツールとしてICFを使える。 ② 介護予防の必要性を具体的に説明（表現）できる。 ③ 日常生活支援にレクリエーションの視点を取り入れることができる。									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況				-	・評価の詳細は初回の授業で説明いたします。 ・提出物（課題）には出席状況の評価が含まれます。				
試験等	提出物			50	<b>□学生へのメッセージ</b> ・遊び心を大切にし、感性を磨きましょう。 ・発想を柔軟にして、たくさん想像しましょう。 ・一緒に学びを楽しみましょう。 ・メアド matsuda.akira@wasedasokki.jp				
	レポート			-					
	随時試験			-					
	定期試験			50					
	平常の授業状況(授業態度)								
その他（ ）									
合計				100%					
<b>□テキスト</b>					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>				
・最新 介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ（中央法規出版）					・ICF国際生活機能分類 世界保健機関（WHO）他				

### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	授業内容解説/評価方法解説/介護福祉士の専門性
2	自立支援の考え方と方法	自立支援を実践するための「仮説」の立て方を学ぶ
3	エンパワメントアプローチ	ストレングスに焦点をおいた生活モデルに基づく生活支援を学ぶ
4	ICFを使う①	国際的なアセスメントツールとしてのICFを学ぶ
5	ICFを使う②	アセスメントの視点と評価の基準/活動と参加、環境因子の関係性を学ぶ
6	ICFを使う③	介護の専門性と看護とソーシャルワークとの隣接領域を学ぶ
7	介護予防の概要	介護予防の目的と考え方/介護予防サービスと高齢者について学ぶ
8	介護予防の実際①	自立支援と介護予防について理解を深める(医学モデルから生活モデルへ)
9	介護予防の実際②	介護予防の必要性(世界の動向と日本の近未来を考える)
10	自立支援とレクリエーション	自立支援の視点からレクリエーションの意義と目的を学ぶ
11	レクリエーションの企画	意欲を引き出し関係構築に役立つレクリエーションの技法と提案方法
12	レクリエーションの実践	レクリエーションの模擬実践(ロールプレイ)
13	自立支援の課題①	key wordsの理解度を確認
14	自立支援の課題②	自立支援を実践するための課題を考える
15	期末試験	レポート提出

科目名	介護の基本IV			担当教員	比嘉 充吉		単位数	3																																												
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	講義	法令等指定	○																																											
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○																																											
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護事業所管理者、経営本部経営企画課、現在は経営本部で施設事業担当をしています。介護におけるリスクマネジメントについて指導します。																																																	
<b>□位置付け</b> 介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、多職種連携の意義を理解する。																																																				
<b>□授業の目的</b> 「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解すると共に、「介護を必要とする人」を生活の視点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解する。																																																				
<b>□授業の到達目標</b> ・介護福祉士を取り巻く状況や背景を、わが国の介護の歴史を通して理解すると共に、現在の介護福祉士の担う社会的役割を理解する																																																				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2"><b>□成績評価の方法を</b></td> <td>評価項目</td> <td>割合</td> <td colspan="6"><b>□成績評価に関するコメント</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">出席状況</td> <td></td> <td>20</td> <td colspan="6" rowspan="7">           ・定期試験だけでなく、授業中のワーク及び授業態度についても評価の対象になります。   <b>□学生へのメッセージ</b>            ・様々なリスクから利用者、自分を守るために必要な知識を身につけ、介護の現場で活躍できる人材になることを目指します。         </td> </tr> <tr> <td rowspan="5">試験等</td> <td>提出物</td> <td></td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>レポート・小テスト</td> <td></td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>随時試験</td> <td></td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td></td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>平常の授業状況 ( )</td> <td></td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>その他 ( )</td> <td></td> <td>-</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計</td> <td></td> <td>100</td> </tr> </table>										<b>□成績評価の方法を</b>		評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>						出席状況			20	・定期試験だけでなく、授業中のワーク及び授業態度についても評価の対象になります。  <b>□学生へのメッセージ</b> ・様々なリスクから利用者、自分を守るために必要な知識を身につけ、介護の現場で活躍できる人材になることを目指します。						試験等	提出物		-	レポート・小テスト		10	随時試験		10	定期試験		40	平常の授業状況 ( )		20	その他 ( )		-	合計			100
<b>□成績評価の方法を</b>		評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>																																																
出席状況			20	・定期試験だけでなく、授業中のワーク及び授業態度についても評価の対象になります。  <b>□学生へのメッセージ</b> ・様々なリスクから利用者、自分を守るために必要な知識を身につけ、介護の現場で活躍できる人材になることを目指します。																																																
試験等	提出物		-																																																	
	レポート・小テスト		10																																																	
	随時試験		10																																																	
	定期試験		40																																																	
	平常の授業状況 ( )		20																																																	
その他 ( )		-																																																		
合計			100																																																	
<b>□テキスト</b> 最新介護福祉士養成講座4 介護の基本II 中央法規					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b> 随時お知らせします。																																															

**□授業計画**

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	介護における安全の確保とリスクマネジメント(第1節:介護における安全の確保)	セーフティーマネジメントの考え方を理解する
2	介護における安全の確保とリスクマネジメント	安全の確保を組織全体で取り組む重要性を学ぶ 安全な暮らしの支援が、利用者の尊厳の保持に結びつくことの重要性を理解する
3	介護における安全の確保とリスクマネジメント(第2節:リスクマネジメント)	ルールや約束を守ることの重要性を理解する
4	介護における安全の確保とリスクマネジメント	福祉サービスに求められる安心や安全について学ぶ
5	介護における安全の確保とリスクマネジメント	事故防止・予防のための対策について学ぶ 事例検討を通じて理解を深める
6	介護における安全の確保とリスクマネジメント	事故防止・予防のための対策について学ぶ 事例検討を通じて理解を深める
7	介護における安全の確保とリスクマネジメント	事故防止・予防のための対策について学ぶ 事例検討を通じて理解を深める
8	介護における安全の確保とリスクマネジメント(第3節:感染症対策)<定期試験>	介護福祉職に必要な感染に関する正しい知識について学ぶ 定期試験(前期)
9	介護における安全の確保とリスクマネジメント	介護福祉職に必要な感染に関する正しい知識について学ぶ 高齢者の特性を理解し、感染症対策について学ぶ 感染を予防するための具体的な方法を学ぶ
10	介護における安全の確保とリスクマネジメント	介護福祉職に必要な感染に関する正しい知識について学ぶ 高齢者の特性を理解し、感染症対策について学ぶ 感染を予防するための具体的な方法を学ぶ

11	介護従事者の安全 (第1節:健康管理の意義と目的)	働く人の健康や生活を守る法制度を学ぶ
12	介護従事者の安全 (第1節:健康管理の意義と目的)	働く人の健康や生活を守る法制度を学ぶ
13	介護従事者の安全	介護に従事することで生じやすい健康問題を学ぶ 介護従事者の健康管理について学ぶ 事例検討
14	介護従事者の安全	介護に従事することで生じやすい健康問題を学ぶ 介護従事者の健康管理について学ぶ 事例検討
15	介護従事者の安全 (第2節:こころの健康管理)	ストレスとこころの健康との関係について学ぶ 介護従事者のこころの病気について学ぶ こころの健康管理について学ぶ
16	介護従事者の安全 (第2節:こころの健康管理)	ストレスとこころの健康との関係について学ぶ 介護従事者のこころの病気について学ぶ こころの健康管理について学ぶ
17	介護従事者の安全 (第2節:こころの健康管理)	ストレスとこころの健康との関係について学ぶ 介護従事者のこころの病気について学ぶ こころの健康管理について学ぶ
18	介護従事者の安全 (第3節:身体の健康管理)	介護従事者の身体健康障害の要因を理解する 介護従事者の身体の健康管理を理解する
19	介護従事者の安全 (第3節:身体の健康管理)	介護従事者の身体健康障害の要因を理解する 介護従事者の身体の健康管理を理解する GW
20	介護従事者の安全 (第3節:身体の健康管理)	介護従事者の身体健康障害の要因を理解する 介護従事者の身体の健康管理を理解する GW
21	介護従事者の安全 (第4節:労働環境の整備)	労働条件の整備について学ぶ 事例検討
22	介護従事者の安全 (第4節:労働環境の整備)	労働条件の整備について学ぶ 事例検討
23	介護の基本IV 総論 定期試験	介護におけるリスク対策を振り返る 定期試験(後期)

科目名	介護の基本V			担当教員	濱野 厚子		単位数	2																																																			
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	講義	法令等指定	○																																																		
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○																																																		
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士および介護支援専門員として介護施設・事業所に20年以上勤務。施設及び在宅での介護経験をもとに介護福祉士で大切な視点での講義をしていく。現在も高齢者施設で勤務をしながら、実際の介護技術を伝えていく。																																																								
<b>□位置付け</b> 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。																																																											
<b>□授業の目的</b> 住み慣れた地域で可能な限り生活をしたいと願っている高齢者や障害者に対し、サービス提供方法と多職種連携の必要性を学ぶ。利用者の生活の視点から介護福祉士の役割と機能、介護実践における知識や技術について、基本的な専門職としての視点を養う。																																																											
<b>□授業の到達目標</b> 介護を必要としている人やその介護者について理解し、生活能力や意欲を引き出すことの必要性、自立に向けた支援を習得する。生活上の課題の解決のために必要なサービスや地域の社会資源を理解する。																																																											
<table border="1"> <tr> <td colspan="2"><b>□成績評価の方法を</b></td> <td>評価項目</td> <td>割合</td> <td colspan="6"><b>□成績評価に関するコメント</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">出席状況</td> <td></td> <td>10</td> <td colspan="6" rowspan="6">           授業中はグループワークやディスカッションにも積極的に参加しましょう。教科書だけではなく映像や配布資料からも試験問題が出題されるのでまとめておきましょう。提出物は期限を守ってください。  <b>□学生へのメッセージ</b>            介護を必要とする人を取り巻く環境を理解して、介護福祉士の役割を学び、介護の仕事のやりがいを実感しましょう。         </td> </tr> <tr> <td rowspan="5">試験等</td> <td>提出物</td> <td></td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>随時試験（小テスト）</td> <td></td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td></td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>平常の授業状況（ ）</td> <td></td> <td>10</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他（ ）</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計</td> <td></td> <td>100%</td> <td colspan="6"></td> </tr> </table>										<b>□成績評価の方法を</b>		評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>						出席状況			10	授業中はグループワークやディスカッションにも積極的に参加しましょう。教科書だけではなく映像や配布資料からも試験問題が出題されるのでまとめておきましょう。提出物は期限を守ってください。 <b>□学生へのメッセージ</b> 介護を必要とする人を取り巻く環境を理解して、介護福祉士の役割を学び、介護の仕事のやりがいを実感しましょう。						試験等	提出物		10	レポート			随時試験（小テスト）		20	定期試験		50	平常の授業状況（ ）		10		その他（ ）			合計			100%						
<b>□成績評価の方法を</b>		評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>																																																							
出席状況			10	授業中はグループワークやディスカッションにも積極的に参加しましょう。教科書だけではなく映像や配布資料からも試験問題が出題されるのでまとめておきましょう。提出物は期限を守ってください。 <b>□学生へのメッセージ</b> 介護を必要とする人を取り巻く環境を理解して、介護福祉士の役割を学び、介護の仕事のやりがいを実感しましょう。																																																							
試験等	提出物		10																																																								
	レポート																																																										
	随時試験（小テスト）		20																																																								
	定期試験		50																																																								
	平常の授業状況（ ）		10																																																								
	その他（ ）																																																										
合計			100%																																																								
<b>□テキスト</b> 最新介護福祉士養成講座4「介護の基本Ⅱ」中央法規					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b> 「新しい介護」「介護リスクマネジメント」講談社「介護福祉士国試ナビ」中央法規 他は授業時に紹介																																																						

**□授業計画**

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション 介護を必要とする人の理解	授業内容・評価方法説明 私たちの生活の理解
2	介護にかかわる職種の役割と機能 多職種連携・協働の実際	復習 保健・医療・福祉職の役割と機能
3	介護を必要とする人たちの暮らし①	介護を必要とする高齢者の暮らし①
4	介護を必要とする人たちの暮らし②	介護を必要とする高齢者の暮らし②
5	介護を必要とする人たちの暮らし③	介護を必要とする高齢者の暮らし③
6	介護を必要とする人たちの暮らし④	介護を必要とする障害者の暮らし①
7	介護を必要とする人たちの暮らし⑤	介護を必要とする障害者の暮らし②
8	介護を必要とする人たちの暮らし⑥	介護を必要とする障害者の暮らし③
9	生活のしづらさとその支援①	家族介護者への支援
10	生活のしづらさとその支援②	利用者の生活を理解する
11	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ①	復習 介護保険制度におけるサービス
12	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ②	復習 障害者総合支援法によるサービス
13	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ③	介護福祉士に求められる支援の視点
14	地域連携 試験対策	入退院時の対応 試験対策問題
15	定期試験	筆記試験

科目名	生活支援技術Ⅳ			担当教員		濱野 厚子		単位数	4
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士および介護支援専門員として介護施設・事業所に20年以上勤務。施設及び在宅での介護経験をもとに介護福祉士で大切な視点での講義をしていく。現在も高齢者施設で勤務をしながら、実際の介護技術を伝えていく。						
<b>□位置付け</b> 介護を必要とする人の暮らしと生活のありようを学び、生活場面における支援技術を理解し、実践できるための知識と技術を習得する。									
<b>□授業の目的</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活支援技術を学ぶ意義を理解し、自立支援の観点から介護実践できる能力を学ぶ。</li> <li>あらゆる介護場面に対応できる基本的な介護の知識・技術を理解する。</li> <li>リスクマネジメントなど、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。</li> </ul>									
<b>□授業の到達目標</b> 尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な生活支援技術を用いて、安全に支援できる技術や知識について習得する。介護福祉士としての実践力を身につけていく。									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況				5	実際に身体を使って介護の知識を学びます。直接人と接する技術なので「こころ」が伝わります。 筆記試験・実技試験ともに合格することが必須です。 提出物は期限を守りましょう。				
試験等	提出物			10					
	レポート								
	随時試験								
	定期試験			40					
	平常の授業状況(授業態度)			5					
その他(実技試験)			40	<b>□学生へのメッセージ</b> 国家試験における生活支援技術は全問題の20%を占めます。基本的な知識と技術など身体を使って習得しましょう。 身だしなみ等を整えてください。整っていない場合には見学になることもあります。					
合計									100%
<b>□テキスト</b> 最新介護福祉士養成講座6・7「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」 中央法規					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b> 「介護福祉士国試ナビ」「いちばんわかりやすい介護術」「新しい介護」 他は授業時に紹介				

#### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	生活支援技術とは①	コミュニケーションを活用した生活支援技術
2	生活支援技術とは②	身体のバランスを活用した生活支援技術
3	排泄の介護①	介護福祉職がおこなう自立を支援する排泄介助
4	排泄の介護②	自立に向けた排泄の介護①
5	排泄の介護③	自立に向けた排泄の介護②
6	移動の介護①	自立に向けた移乗介助 杖歩行の介護
7	移動の介護②	屋外での車いすの介助①
8	移動の介護③	屋外での車いすの介助②
9	食事介助①	介護福祉職が行う自立を支援した食事介助
10	食事介助②	自立に向けた食事介助①
11	食事介助③	自立に向けた食事介助②
12	前期総合学習	事例に基づいた介護 実技試験手順書作成
13	実技試験①	生活支援技術のまとめ
14	実技試験②	生活支援技術のまとめ
15	前期定期試験	筆記試験

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	入浴・清潔保持の介護①	介護福祉職が行う自立を支援した入浴介助
17	入浴・清潔保持の介護②	自立に向けた入浴の介護①
18	入浴・清潔保持の介護③	自立に向けた入浴の介護②
19	入浴・清潔保持の介護④	手浴・足浴・清拭
20	後期総合学習①	介護技術とは「認知症ケアの7原則」①
21	後期総合学習②	介護技術とは「認知症ケアの7原則」②
22	後期総合学習③	介護技術とは「認知症ケアの7原則」③
23	休息・睡眠の介護	睡眠の意義と目的 睡眠と薬
24	終末期の介護①	人生の最終段階における介護の役割①
25	終末期の介護②	人生の最終段階における介護の役割②
26	総合学習	事例に基づいた介護 実技試験手順書作成①
27	総合学習	事例に基づいた介護 実技試験手順書作成②
28	実技試験①	生活支援技術まとめ①
29	実技試験②	生活支援技術まとめ②
30	後期定期試験	筆記試験

科目名	生活支援技術Ⅶ			担当教員	松田 朗		単位数	4	
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	3年間の施設介護と20年間の訪問介護の実務経験、15年間の管理職経験、MHSWとして15年間の相談室における心理的支援の実務経験を活かし、心身の状況に応じた支援に必須となる知識と技術の使い方をわかりやすく伝える。						
<b>□位置付け</b> 介護を必要とする人の個別性を重視することと、疾病や障がいの持つ特性をいくつかの視点で具体的に理解することの重要性を理解し、利用者の状態・状況に応じた支援が展開できる基盤となる知識と技術を習得する。									
<b>□授業の目的</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者や場所など多様な介護場面に汎用可能な基本的な介護の知識と技術を修得する。</li> <li>・想定できる介護場面において、自立支援の観点から介護サービスを実践できる基盤となる能力を修得する。</li> <li>・想定できる介護場面において、安全に配慮した介護サービスを実践できる基盤となる能力を修得する。</li> <li>・多職種連携の際の介護福祉士の役割への理解を深める。</li> </ul>									
<b>□授業の到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護を必要とする人の個別性を重視し、想定できる介護場面に共通する基礎的な知識と技術の活用方法を、根拠に基づいて想定することができる。</li> <li>・介護を必要とする人の現状(心身・環境)を適切に把握し、「していること・できること」を活かした、安全に配慮した支援を提案できる。</li> <li>・職種間のネットワークを築き維持するための観察と情報共有に要する留意点を想定できる。</li> </ul>									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況				-	・毎回の授業で振り返りレポートを作成していただきます。このレポートには出席状況点が含まれます。 ・平常の授業状況は話を聴く姿勢、ペアワークやグループワークへの取り組み方が評価の対象となります。 ・評価の詳細は初回の授業で説明いたします。 <b>□学生へのメッセージ</b> ・遊び心を大切にし、感性を磨きましょう。 ・発想を柔軟にして、たくさん想像しましょう。 ・一緒に学びを楽しみましょう。				
試験等	提出物		-						
	レポート		50						
	随時試験		-						
	定期試験		50						
	平常の授業状況(授業態度)		-						
合計				100%					
<b>□テキスト</b> 最新 介護福祉士養成講座8 「生活支援技術Ⅲ」 最新版 中央法規					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b> 授業の中でご紹介していきます。				

### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション/はじめに	授業内容・進め方・成績評価等について説明いたします。/意義と目的
	肢体不自由に応じた介護①	対象者の研究を通して、生活上の困りごとを具体的にイメージでき、適切な判断のもと対象者に適った手技等を選択し提供できるように技術を学びます。
3	肢体不自由に応じた介護②	
4	視覚障害に応じた介護①	
5	視覚障害に応じた介護②	対象者の研究と視覚に障がいを持った状態での生活を擬似体験し、その体験から生活上の困りごとを具体的にイメージする術を修得し、適切な支援を創っていく技術を学びます。
6	視覚障害に応じた介護③	
7	聴覚言語障害に応じた介護①	
8	聴覚言語障害に応じた介護②	コミュニケーション障がいには焦点を当て、対象者に応じた具体的な支援技術を選択できるための基本知識と、いくつかの代表的な技術を学びます。
9	重症心身障害に応じた介護①	
10	重症心身障害に応じた介護②	
11	知的障害に応じた介護①	事例を通して対象者を研究し、生活上の困りごとを具体的に確かめ、支援の際の留意事項などから障害の特性への理解を深めます。
12	知的障害に応じた介護②	
13	居宅介護①	居宅介護の現状と現場に入る際の心構えと態度をお伝えいたします。
14	居宅介護②	ゲストスピーカー登壇予定
15	定期試験	レポート提出

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	精神障害に応じた介護①	精神障がいをお持ちの方としっかり向き合い、同じもの（一つの事柄や感情など）を共有するための心構えを学びます。統合失調症・気分障がい・適応障がい・抑うつ神経症・依存症などの障がい特性を踏まえた支援方法を学びます。
17	精神障害に応じた介護②	
18	精神障害に応じた介護③	
19	高次脳機能障害に応じた介護	事例を通して障がいの特性への理解を深め、支援の際の心構えを学びます。
20	発達障害に応じた介護	事例を通して障がいの特性への理解を深め、支援の際の心構えを学びます。
21	筋萎縮性側索硬化症に応じた介護	難病を抱えながらの生活に対する理解を深め、症状・心理・環境などに応じた生活支援技術が提供できるように、基本的な手技などを学びます。 ゲストスピーカー登壇予定。
22	ALSに応じた介護②	
23	ALSに応じた介護③	
24	パーキンソン病に応じた介護①	事例を通して、難病を抱えながらの生活に対する理解を深め、症状・心理・環境などに応じた生活支援技術が提供できるように、基本的な手技などを学びます。
25	パーキンソン病に応じた介護②	
26	悪性関節リウマチに応じた介護①	事例を通して、難病を抱えながらの生活に対する理解を深め、症状・心理・環境などに応じた生活支援技術が提供できるように、基本的な手技などを学びます。
27	悪性関節リウマチに応じた介護②	
28	筋ジストロフィーに応じた介護①	事例を通して、難病を抱えながらの生活に対する理解を深め、症状・心理・環境などに応じた生活支援技術が提供できるように、基本的な手技などを学びます。
29	筋ジストロフィーに応じた介護②	
30	定期試験	レポート提出

科目名	介護過程Ⅱ			担当教員	中嶋 純也		単位数	4																																																		
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	演習	法令等指定	○																																																	
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○																																																	
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士及び介護支援専門員として介護施設・事業所に20年勤務。施設及び在宅での介護実務経験をもとに介護実践で大切な根拠ある介護方法についての思考過程の展開について講義する。																																																							
<b>□位置付け</b> 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。																																																										
<b>□授業の目的</b> 利用者理解を図りながら、必要な情報収集を行い、その情報の分析・解釈に基づいて介護内容や方法を計画し、実施・評価する一連の過程であり、介護過程の理論と実習体験を関連付けながら介護過程を展開する能力の育成を目指す。																																																										
<b>□授業の到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護過程の展開について具体的な実施の事例を通して理解する。</li> <li>介護過程による介護計画とケアマネジメントの違いを知る。</li> <li>ICFの概念を取り入れ、利用者の潜在能力を引き出し活用・発揮することの意義について理解できる。</li> <li>自立度や生活の場に応じた介護・医療・保健との連携協働を要とする介護、終末期における介護の展開など、様々な利用者の状況に応じた介護過程の展開を理解できる</li> </ul>																																																										
<table border="1"> <tr> <td colspan="2"><b>□成績評価の方法</b></td> <td>評価項目</td> <td>割合</td> <td colspan="6"><b>□成績評価に関するコメント</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">出席状況</td> <td></td> <td>30</td> <td colspan="6" rowspan="7">出席状況、提出物、定期試験、授業態度すべて評価に含まれます。特に提出物については、提出期限を厳守してください。評価の詳細は、初回の授業にて説明します。</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">試験等</td> <td>提出物</td> <td></td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td></td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>随時試験</td> <td></td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td></td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>平常の授業状況 ( )</td> <td></td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>その他 ( )</td> <td></td> <td>—</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計</td> <td></td> <td>100%</td> <td colspan="6"> <b>□学生へのメッセージ</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>授業に出席することが前提です。やむを得ず欠席した場合には次の授業までに必ず、担当教員に確認してください。</li> <li>介護実習では介護過程を展開するので、これまで学んだ知識が総合的に必要になります。</li> </ul> </td> </tr> </table>										<b>□成績評価の方法</b>		評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>						出席状況			30	出席状況、提出物、定期試験、授業態度すべて評価に含まれます。特に提出物については、提出期限を厳守してください。評価の詳細は、初回の授業にて説明します。						試験等	提出物		40	レポート		20	随時試験		—	定期試験		—	平常の授業状況 ( )		10	その他 ( )		—	合計			100%	<b>□学生へのメッセージ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業に出席することが前提です。やむを得ず欠席した場合には次の授業までに必ず、担当教員に確認してください。</li> <li>介護実習では介護過程を展開するので、これまで学んだ知識が総合的に必要になります。</li> </ul>					
<b>□成績評価の方法</b>		評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>																																																						
出席状況			30	出席状況、提出物、定期試験、授業態度すべて評価に含まれます。特に提出物については、提出期限を厳守してください。評価の詳細は、初回の授業にて説明します。																																																						
試験等	提出物		40																																																							
	レポート		20																																																							
	随時試験		—																																																							
	定期試験		—																																																							
	平常の授業状況 ( )		10																																																							
その他 ( )		—																																																								
合計			100%	<b>□学生へのメッセージ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業に出席することが前提です。やむを得ず欠席した場合には次の授業までに必ず、担当教員に確認してください。</li> <li>介護実習では介護過程を展開するので、これまで学んだ知識が総合的に必要になります。</li> </ul>																																																						
<b>□テキスト</b> 最新 介護福祉士養成講座9 介護過程（中央法規）					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b> 担当教員により随時ご紹介いたします。																																																					

#### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	介護過程の理解	介護過程の全体像
2	〃	アセスメント（課題の解釈・関連づけ・統合化）
3	〃	アセスメント（課題の明確化）
4	介護過程の実践的展開	アセスメントの実際（介護実習Ⅱでの事例を用いた情報収集）
5	〃	アセスメントの実際（課題の解釈・関連づけ・統合化）
6	〃	アセスメントの実際（課題の明確化）
7	介護過程の理解	介護計画の立案について計画とは・目標の立て方・計画）
8	〃	介護計画の立案について計画とは・目標の立て方・計画）
9	〃	介護過程の立案について（実施・評価・再アセスメント）
10	介護過程の実践的展開	介護計画の展開（計画の立案）
11	〃	介護過程の展開（計画の立案）
12	〃	介護過程の展開（実施・評価）
13	〃	介護過程の展開（実施・評価）
14	〃	介護過程の展開（事例を通してレポート作成）
15	まとめ	介護実習Ⅲに向けて

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開	実習の振り返り（インシデント・アクシデントチェック）
17	〃	ケーススタディ（介護実習Ⅲ介護過程の事例を活用）整理①
18	〃	〃（ 〃 ）整理②
19	〃	〃（ 〃 ）グループワーク①事例紹介
20	〃	〃（ 〃 ） 〃 ②事例紹介
21	〃	〃（ 〃 ）個人ワーク① 事例作成
22	〃	〃（ 〃 ）個人ワーク② 事例作成
23	〃	〃（ 〃 ）個人ワーク③ 事例作成
24	〃	〃（ 〃 ）個人ワーク④ 事例作成
25	〃	〃（ 〃 ）個人ワーク⑤事例まとめ
26	〃	〃（ 〃 ）個人ワーク⑥事例まとめ
27	ケーススタディ	ケーススタディ①（リハーサル）
28	〃	ケーススタディ②（リハーサル）
29	〃	ケーススタディ③（発表会）
30	〃	ケーススタディ④（発表会）

科目名	介護過程Ⅲ			担当教員	水沢 吉伸		単位数	2	
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士及び介護支援専門員として介護施設等で30年以上勤務。実務経験をもちに授業を行う。						
<b>□位置付け</b> 介護保険制度において、介護支援専門員による適切な介護サービスの在り方を習得する。									
<b>□授業の目的</b> 介護支援専門員に必要なスキルを学ぶ ①介護保険の目的や仕組みを理解する ②介護支援専門員として基本姿勢を理解する ③ケアマネジメントのプロセスを理解する ④地域における社会資源を知る									
<b>□授業の到達目標</b> ケアマネジメントのプロセスを理解し、利用者の課題解決に向けた具体的な援助を導き出すプランをイメージできるようにする									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況				10	授業に出席すること、授業における姿勢、大事にします。  <b>□学生へのメッセージ</b> 自ら、主体的に授業に参加して下さい				
試験等	提出物			10					
	レポート			—					
	随時試験			—					
	定期試験			70					
	平常の授業状況 ( )			10					
その他 ( )			—						
合計				100%					
<b>□テキスト</b> 随時、プリントを配付します					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>				

### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	介護保険制度の理念・目的①	介護保険創設の背景と理念について理解する
2	介護保険制度の理念・目的②	介護保険制度の理念を考え、全体で共有する
3	介護サービスの利用のしかた①	介護サービスを利用するまでの手続の流れを理解する
4	介護サービスの利用のしかた②	地域包括支援センターを理解する
5	介護保険サービスと介護報酬①	サービス内容、介護報酬を理解し、サービスの期待できる効果を考える
6	介護保険サービスと介護報酬②	サービス内容、介護報酬を理解し、サービスの期待できる効果を考える
7	介護保険外の公的サービス	それぞれの市区町村独自のサービスを理解する
8	社会資源の開発	インフォーマルなサービスについて考える
9	相談援助技術について	介護支援専門員としての基本姿勢を学ぶ
10	ケアマネジメント	ケアマネジメントのプロセスを理解する
11	アセスメントについて	情報収集・ニーズの抽出・目標設定について理解する
12	ケアプランの作成①	事例を通じて、実際にケアプランを作成する
13	ケアプランの作成②	事例を通じて、実際にケアプランを作成する
14	ケアプランの作成③	事例を通じて、実際にケアプランを作成する
15	定期試験	試験

科目名	介護総合演習Ⅱ			担当教員	中嶋・渡辺		単位数	4	
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士として介護保険施設及び在宅介護での20年に及ぶ実務経験をもとに介護実践の知識と技術を伝える。						
<b>□位置付け</b> 介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。質の高い介護実践やエビデンスの構築に繋がる実践研究の意義とその方法を理解する。									
<b>□授業の目的</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護サービスを提供する対象、場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養う。</li> <li>多職種協働やケアマネジメントなどの制度の仕組みを踏まえ、具体的な事例について介護過程を展開できる能力を養う。</li> </ul>									
<b>□授業の到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護実習の重要性について理解できる。</li> <li>介護実習に向けての心構え、予備知識、動機づけ等の準備ができる。</li> <li>介護実習を通じて学校内で学んだ知識、技術、態度を具体的かつ実際に理解できるようになる。</li> <li>習得した学内諸学習を応用し、実践的な技術等を身につけられる。</li> <li>介護福祉士としての自覚ができ、専門職に求められる資質、技能及び自己に求められる課題把握等、総合的対応力を取得できる。</li> <li>住みなれた場所での生活をお送るという考えについて、地域の中にある社会資源とは何か、介護を必要とする方の生活とどのように結びつけていけるのかを理解する。</li> </ul>									
<b>□成績評価の方法</b>				評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>			
出席状況					50	定期試験としての筆記や実技の試験はありませんが、出席状況、提出物で評価されます。提出物等は担当教員からの説明をよく聞き指示に従ってください。  <b>□学生へのメッセージ</b> 介護総合演習は介護実習が充実した意義のあるものにするための授業です。			
試験等	提出物				30				
	レポート				—				
	随時試験				—				
	定期試験				20				
	平常の授業状況(授業態度)				—				
その他( )				—					
合計					100%				
<b>□テキスト</b>					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 第2版(中央法規)</li> <li>介護実習の手引き</li> </ul>					担当教員より随時ご紹介いたします。				

### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	介護実習Ⅰ・Ⅱ振り返り	1年時の実習を振り返り、資料確認と整理
2	介護実習Ⅲ・Ⅳオリエンテーション①	介護実習Ⅲ・Ⅳの目的・意義
3	介護実習Ⅲ・Ⅳオリエンテーション②	介護実習Ⅲ・Ⅳに関連した事前学習①
4	介護実習Ⅲ・Ⅳオリエンテーション③	介護実習Ⅲ・Ⅳに関連した事前学習②
5	地域包括ケアシステムとは何か①	地域包括ケアシステムの概要
6	地域包括ケアシステムとは何か②	地域包括ケアシステムの実際
7	介護実習Ⅳオリエンテーション①	在宅介護の概要
8	介護実習Ⅳオリエンテーション②	在宅介護の実際
9	介護実習Ⅳオリエンテーション③	在宅介護の実際
10	介護実習Ⅲ・Ⅳオリエンテーション①	介護実習Ⅲ・Ⅳの目標と個人目標①
11	介護実習Ⅲ・Ⅳオリエンテーション②	介護実習Ⅲ・Ⅳの目標と個人目標②
12	介護実習Ⅲ・Ⅳオリエンテーション③	介護実習Ⅲ・Ⅳの心構え・取り組み方①
13	介護実習Ⅲ・Ⅳオリエンテーション④	介護実習Ⅲ・Ⅳの心構え・取り組み方②
14	介護実習Ⅲ 帰校日①	実習巡回教員による個別指導
15	介護実習Ⅲ 帰校日②	実習巡回教員による個別指導

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	定期試験	レポート
17	介護実習Ⅲ・Ⅳの振り返り①	介護実習Ⅲ・Ⅳで得た学びの共有①
18	介護実習Ⅲ・Ⅳの振り返り②	介護実習Ⅲ・Ⅳで得た学びの共有②
19	介護実習Ⅲ・Ⅳの振り返り③	介護実習Ⅲ・Ⅳの自己評価
20	介護の実践の科学的探究①	実践事例とエビデンスの検討①
21	介護の実践の科学的探究②	実践事例とエビデンスの検討②
22	介護の実践の科学的探究③	実践事例とエビデンスの検討③
23	介護の実践の科学的探究④	実践事例とエビデンスの検討④
24	特別授業	地域の社会資源を考える①
25	特別授業	地域の社会資源を考える②
26	特別授業	自立した日常生活とは何か①
27	特別授業	自立した日常生活とは何か②
28	特別授業	今後の介護福祉の展望①
29	特別授業	今後の介護福祉の展望②
30	「求められる介護福祉士像」	資格取得時の到達目標に対しての自己評価

科目名	介護実習Ⅲ			担当教員	松田・中嶋・濱野・渡辺		単位数	6	
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	実習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士として介護保険施設及び在宅介護での20年に及ぶ実務経験をもとに介護実践の知識と技術を伝える。						
<b>□位置付け</b> 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う。									
<b>□授業の目的</b> 実習は、介護の実践を学ぶ場であり、専門職業人としての自己形成の場でもある。介護の実体験を通して、領域「人間と社会」で学んだ人間の尊厳や、領域「こころとからだのしくみ」で学んだ介護に必要なからだのしくみなど、これまでの学習内容を統合させて、介護とは何かを理解・再確認し、それを実践する基礎的能力を習得する。									
<b>□授業の到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受容、共感的態度を基盤に、利用者との個別的なかわりを深める。</li> <li>・利用者の全体像をとらえ、個別の介護ニーズを把握できる。</li> <li>・利用者に適した介護方法を考え、適切な介護を実践できる。実施した介護方法を考察し、評価できる。</li> <li>・1人の利用者の全体像をとらえ、介護過程をより深めて展開できる。研究的態度を養う。</li> <li>・施設サービス全般ならびに社会的役割を認識できる。地域社会における施設の役割を理解できる。</li> <li>・介護職ならびに関係職種と連携、協働できる。介護過程の展開を通し、チームワークの具体的あり方を学ぶ。</li> </ul>									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況				60	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護実習の継続が困難と認められる場合、実習を中止し、単位認定をしない場合があります。</li> <li>・その他、習得すべき内容が伴わない場合は、単位認定をしない場合があります。</li> </ul> <b>□学生へのメッセージ</b> 介護実習は利用者、実習施設、指導者等の協力があって成立します。ルールを守り、欠席しないよう調整してください。実習期間中は巡回担当教員が定期的に指導を行います。何でも遠慮なく相談してください。				
試験等	提出物		—						
	レポート		—						
	随時試験		—						
	定期試験		—						
	平常の授業状況（実習の状況）		40						
その他（ ）				—					
合計				100%					
<b>□テキスト</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最新 介護福祉士養成講座10</li> <li>介護総合演習・介護実習（中央法規）</li> <li>介護実習の手引き</li> </ul>					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>				
<b>□授業計画</b>									
回数	テーマ			授業の内容、進め方					
	介護実習Ⅲ (23日間)			オリエンテーション（実習前もしくは実習初日に実施される） コミュニケーション 生活支援技術（身じたくの介護） 〃（移動の介護） 〃（食事の介護） 〃（入浴・清潔保持の介護） 〃（排泄の介護） 〃（睡眠の介護） 〃（看取りの介護） レクリエーション 介護過程の展開（1人の利用者の全体像をとらえ、ニーズを把握する。利用者に適した介護方法を考え実践する。実践した介護方法を考察し、評価する） ※上記の項目は実習内容である。ただし、実習先のスケジュールに従い内容は変更されることがある。 24時間の利用者の生活状況を把握するため、実習は日中の時間帯だけでなく早番・遅番・夜勤などの変則勤務（実習）を体験することがある。					

科目名	介護実習Ⅳ			担当教員	松田・中嶋・濱野・渡辺		単位数	1	
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	実習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士として介護保険施設及び在宅介護での20年に及ぶ実務経験をもとに介護実践の知識と技術を伝える。						

**□位置付け**

対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解する。

**□授業の目的**

実習は、介護の実践を学ぶ場であり、専門職業人としての自己形成の場でもある。  
介護の実体験を通して、領域「人間と社会」で学んだ人間の尊厳や、領域「こころとからだのしくみ」で学んだ介護に必要なからだのしくみなど、これまでの学習内容を統合させて、介護とは何かを理解・再確認し、それを実践する基礎的能力を習得する。

**□授業の到達目標**

- ・利用者や家族との接し方を学ぶ。
- ・利用者及び家族の生活状況を理解するとともに、ニーズを知る。
- ・在宅福祉サービスの実際に参加し、状況に合った支援方法について知る。
- ・自分の学びを整理し記録できる。
- ・在宅福祉サービスの内容及び社会資源を理解できる。
- ・介護サービス計画を通して、チームワークや他の関係機関との連携のあり方を具体的に学ぶ。
- ・介護福祉士として守るべき倫理と態度を身につける。
- ・実習を振り返り、生活支援者としての自己を客観視できる。
- ・介護福祉士としての介護者観を明確にできる。

**□成績評価の方法**

評価項目

割合

出席状況	60	
試験等	提出物	—
	レポート	—
	随時試験	—
	定期試験	—
	平常の授業状況（実習の状況）	40
その他（ ）	—	
合計	100%	

**□成績評価に関するコメント**

・介護実習の継続が困難と認められる場合、実習を中止し、単位認定をしない場合があります。  
・その他、習得すべき内容が伴わない場合は、単位認定をしない場合があります。

**□学生へのメッセージ**

介護実習は利用者、実習施設、指導者等の協力があって成立します。ルールを守り、欠席しないよう調整してください。

**□テキスト**

- ・最新 介護福祉士養成講座10  
介護総合演習・介護実習 第2版（中央法規）
- ・介護実習の手引き

**□参考図書・資料・参考ホームページ**

**□授業計画**

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	介護実習Ⅳ	訪問介護員に同行し、利用者宅を訪問して実習する。
2	(4日間)	〃
3	↓	〃
4	↓	〃

科目名	こころとからだのしくみⅡ			担当教員	渡辺 愛子		単位数	4	
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師として急性期病棟に24年勤務。脳神経外科・消化器外科・循環器科等の実務経験から、人体はイメージできると興味が深まり記憶に残りやすい。説明はイラストや模型を多く使用し、なぜ介護福祉に解剖知識が必要なのかを伝える。						
<b>□位置付け</b> 生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。									
<b>□授業の目的</b> この科目では、心と体の両面から利用者の状態を見て、その状態がどのような要因から引き起こされているのか、その根拠となる知識について学ぶ。また、残存能力・潜在能力を引き出し、利用者の尊厳の尊重と自立を支援するための適切な介護方法を導き出す。									
<b>□授業の到達目標</b> 1. 移動、食事、入浴・清潔保持、休息・睡眠に関連した心と体のしくみについて理解する。 2. 移動、食事、入浴・清潔保持、休息・睡眠に関連した心と体の変化について理解し、利用者の状態の変化に気づくことができるようになる。また、医療職との連携について理解する。 3. 人生の最終段階のケアに関連した心と体のしくみについて学び、終末期の利用者及び家族への支援について理解を深める。									
<b>□成績評価の方法</b>				評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>			
出席状況						・提出物、レポートは提出期限を厳守することも評価に含まれます。評価の詳細は初回の授業で説明します。			
試験等	提出物				20	<b>□学生へのメッセージ</b> ・授業で覚えたことを誰かに話すと記憶への定着が上がります。科学的根拠に基づいた言葉は、周囲を説得でき信頼も得られます。知識に自信が持てるよう一緒に楽しく学んでいきましょう。			
	レポート				30				
	随時試験								
	定期試験				50				
	平常の授業状況（授業態度）								
その他（ ）									
合計					100%				
<b>□テキスト</b>					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>				
最新 介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ（中央法規）					適宜紹介します				

### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	移動に関連したしくみ	オリエンテーション 移動のしくみ
2		〃
3		心身の機能低下が移動に及ぼす影響
4		〃
5		移動における観察ポイントと対応 医療職との連携
6	食事に関連したしくみ	食事のしくみ
7		〃
8		心身の機能低下が食事に及ぼす影響
9		〃
10		食事における観察ポイントと対応 医療職との連携
11	入浴・清潔に関連したしくみ	入浴・清潔保持のしくみ
12		〃
13		心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響
14		〃
15	定期試験	筆記試験

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	入浴・清潔保持に関連したしくみ	入浴・清潔保持における観察ポイントと対応 医療職との連携
17	休息・睡眠に関連したしくみ	休息・睡眠のしくみ
18		〃
19		心身の機能低下が休息・周防民に及ぼす影響
20		〃
21		休息・睡眠における観察のポイントと対応 医療職との連携
22	人生の最終段階のケアに関連したしくみ	「死」のとらえ方
23		終末期のケアのポイント
24		「死」に対するこころの理解
25		終末期から臨終期における身体機能の変化 死後のからだの変化
26		在宅での看取りの準備 家族への援助
27		終末期における医療職との連携 多職種連携
28		在宅での看取りについて考える
29	まとめ	総復習
30	定期試験	筆記試験

科目名	発達と老化の理解 I			担当教員	笠倉 賢一		単位数	2	
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	鍼灸師、按摩マッサージ指圧師の資格があり、現在は理学療法士として病院・クリニックで20年勤務。自身の経験をもとに高齢者にみられる疾病や生活支援の知識を伝える。						
<b>□位置付け</b> 老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や、高齢者に多く見られる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を理解する。									
<b>□授業の目的</b> ①老化にともなう身体的な変化と生活への影響を理解する。 ②高齢者と健康に関する基礎知識を習得する。									
<b>□授業の到達目標</b> 老化を理解し、老化にともなう心理や身体機能の変化およびその特徴に関する基礎的な知識を習得する。									
<b>□成績評価の方法</b>				評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>			
出席状況					10	・基本的には期末試験で評価しますが、出席や授業態度も加味する。			
試験等	提出物					<b>□学生へのメッセージ</b>			
	レポート					専門用語が多い授業です。			
	随時試験					わからない語句は「こころとからだのしくみ」のテキストを活用し、調べる習慣をつけましょう。			
	定期試験				80	実際の画像をパワーポイントを使用して説明します。			
	平常の授業状況(授業態度)				10				
その他( )									
合計					100%				
<b>□テキスト</b>					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>				
最新 介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解 第2版(中央法規出版)									

### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション 老化に伴う心と身体の変化と生活①	授業の説明、評価について 加齢による生理機能の全体的低下
2	老化に伴う心と身体の変化と生活②	身体的機能の低下と日常生活への影響(骨格系～呼吸器系)
3	老化に伴う心と身体の変化と生活③	身体的機能の低下と日常生活への影響(消化器系～免疫系)
4	健康長寿に向けての健康	平均余命と健康寿命
5	高齢者の症状・疾患の特徴	高齢者の症状・疾患の特徴と特有な症状
6	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点①	骨格・筋系①
7	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点②	骨格・筋系②
8	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点③	脳神経系/皮膚・感覚器系
10	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点④	循環器系・呼吸器系
11	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑤	消化器系・腎・泌尿器系
12	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑥	内分泌・代謝系/歯・口腔疾患/悪性新生物(がん)
13	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑦	感染症/精神疾患/その他
14	保健医療職種との連携	医療職との連携について
15	期末試験	定期試験

科目名	発達と老化の理解Ⅱ			担当教員	松田 朗		単位数	2	
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	3年間の施設介護と20年間の訪問介護の実務経験、15年間の管理職経験、MHSWとして15年間の相談室における心理的支援の実務経験を活かし、心身の状況に応じた支援に必須となる知識と技術の使い方をわかりやすく伝える。						
<b>□位置付け</b> 人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する。									
<b>□授業の目的</b> ①人間の成長と発達に関する基礎的な知識を習得する。 ②人間の発達課題が生活に及ぼす心理的な影響や行動の特徴などを踏まえ、対象者の言動（の根底にある感情）を肯定的に受けとめることができる。 ③自己理解を深めることができる。									
<b>□授業の到達目標</b> ①青年期の危機、中年期の危機、老年期の危機が生活に及ぼす影響を具体的に説明（表現）できる。 ②発達課題が生活にどのような影響を及ぼすかを理解し、エビデンスとナラティブの2つの視点から支援計画につながる仮説を立てることができる。 ③自分自身と向き合い、自分の行動や思考の特徴を発達心理学の視点から考えを深めることができる。									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況				—	・評価の詳細は初回の授業で説明いたします。 ・提出課題には出席状況評価が含まれます。				
試験等	提出物			50	<b>□学生へのメッセージ</b> ・遊び心を大切にし、感性を磨きましょう。 ・発想を柔軟にして、たくさん想像しましょう。 ・一緒に学びを楽しみましょう。 ・メアド matsuda.akira@wasedasokki.jp				
	レポート								
	随時試験			—					
	定期試験			50					
	平常の授業状況（ ）			—					
その他（ ）			—						
合計				100%					
<b>□テキスト</b>					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>				
最新 介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解（中央法規出版）					「よくわかる臨床発達心理学(第4版)」ミネルヴァ書房 「心理学理論と心理的支援(第2版)」ミネルヴァ書房				

### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション/成長・発達の考え方	授業内容・レポートの書き方・評価基準と方法の説明/授業への導入
2	成長・発達の原則・法則/成長・発達に影響する要因	影響因子を支援の際にどのように活かす(留意する)のかを学びます。
3	成長・発達に影響する要因/発達理論	いくつかの理論を学び、それらの支援への活かし方を学びます。
4	発達理論/発達段階と発達課題①	ペアワークとグループワークを通して、環境との相互作用における心身の変化を具体的な生活場面を想定しながら時系列で学び、さらに支援計画にどのように活かしていくかを学びます。
5	発達段階と発達課題②/発達段階と発達課題③	
6	発達段階と発達課題④/身体的機能の成長と発達	
7	身体的機能の成長と発達/心理的機能の発達①	身体の成長・発達を学生自身の成長・発達に照らし合わせて学びます。
8	心理的機能の発達②/心理的機能の発達③	心の成長・発達を具体的な事例を交えて学び、人への理解を深めます。
9	社会的機能の発達①/社会的機能の発達②	人間関係の形成やチームの形成を念頭に発達との関係性を学びます。
10	社会的機能の発達③/老年期の定義	ペアワークとグループワークを通して、高齢者に焦点を当てて心と身体の機能的な変化と発達との関係性を、生活場面を想定しながら学び、さらに支援計画にどのように活かしていくかを学びます。
11	老化とは/老年期の発達課題①	
12	老年期の発達課題②/老年期の発達課題③	
13	老年期をめぐる今日的課題①	住み慣れた町の、住み慣れた家で、馴染みの人たちと、活き活きと、楽しく暮らし続けるための支援を学びます。
14	老年期をめぐる今日的課題②	
15	定期試験	レポート提出

科目名	認知症の理解			担当教員	大石 恵子		単位数	4	
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	講義	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	授業期間	通年	学期	前後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	常勤看護師として約26年（急性期病棟、療養病棟、緩和ケア病棟、訪問看護等）、非常勤看護師として約4年（介護施設等）の勤務を経験した。様々な現場で認知症の方々と関わった経験を活かし講義する。						
<b>□位置付け</b> 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に捉え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するため基礎的な知識を習得する。									
<b>□授業の目的</b> 2025年には高齢者の約5人に1人が、「認知症」になると予測されています。他人事ではありません。脳の病気により認知機能が低下し、日常生活全般に支障が出てきます。「認知症」には種類があり、それぞれ症状や経過に特徴があり、介護のコツも違います。「認知症」の人も周りの人たちも、みな笑顔で生きられること、を目指した支援ができるようになるために、正しい知識を学びましょう。									
<b>□授業の到達目標</b> 以下を、説明できるようになることを目指します。 ①「認知症」とは何か ②「認知症」の主な原因疾患と、それぞれの特徴 ③「認知症」の人に、どんなケアをするのか ④「認知症」の人の介護者に、どんな支援をするのか ⑤「認知症」の人とその介護者を支えるしくみは、どのようになっているのか そして、授業がすべて終了した時に、「認知症」ケアの今後の課題は何か、学生それぞれの意見を持てるようになることを目指します。									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況			試験等	提出物 レポート 随時試験 定期試験 平常の授業状況（ ） その他（ ）	30%	・出席状況：出席し授業の感想を提出→1点×30回＝30点満点			
・定期試験：40点満点の筆記試験									
・平常の授業状況：30点満点。求められても意見を言わない、意図的に眠る、注意されても私語をやめない等→1回1点減点									
<b>□学生へのメッセージ</b>									
・テキストを持参して下さい。									
・グループワークでは積極的に意見交換をして下さい。									
・わからないことがあれば、遠慮をせず、質問して下さい。									
・状況によりシラバスを修正する可能性があります。									
・一緒に、楽しく、学びましょう。									
合 計					100%				
<b>□テキスト</b>					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>				
最新 介護福祉士養成講座 13 認知症の理解 第2版（最新版） 発行日2022年2月1日					随時紹介します。				

### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション	シラバス・評価方法の説明、自己紹介、テキスト第1章第1節
2	認知症とは何か	講義と演習 テキスト 第1章 第2節
3	脳のしくみ	〃 テキスト 第1章 第3節
4	認知症の人の心理	〃 テキスト 第1章 第4節
5	中核症状の理解	〃 テキスト 第2章 第1節
6	生活障害の理解	〃 テキスト 第2章 第2節
7	BPSDの理解	〃 テキスト 第2章 第3節
8	認知症の診断と重症度	〃 テキスト 第2章 第4節
9	認知症の原因疾患と症状・生活障害	〃 テキスト 第2章 第5節
10	認知症の治療薬	〃 テキスト 第2章 第6節
11	認知症の予防	〃 テキスト 第2章 第7節
12	認知症の人を取り巻く状況	〃 テキスト 第3章 第1節
13	認知症ケアの理念と視点	〃 テキスト 第3章 第2節
14	認知症当事者の視点からみえるもの	〃 テキスト 第3章 第3節
15	パーソン・センタード・ケア	〃 テキスト 第4章 第1節

回数	テーマ	授業の内容、進め方
16	認知症の人のアセスメント①	講義と演習 テキスト 第4章 第2節 1-2
17	認知症の人のアセスメント②	〃 テキスト 第4章 第2節 3-4
18	認知症の人とのコミュニケーション	〃 テキスト 第4章 第3節
19	認知症の人へのケア①	〃 テキスト 第4章 第4節 1-5
20	認知症の人へのケア②	〃 テキスト 第4章 第4節 6-10
21	認知症の人へのアプローチ①	〃 テキスト 第4章 第5節 1-2
22	認知症の人へのアプローチ②	〃 テキスト 第4章 第5節 3
23	認知症の人の終末期医療と介護	〃 テキスト 第4章 第6節
24	環境づくり	〃 テキスト 第4章 第7節
25	家族への支援	〃 テキスト 第5章 第1節
26	介護福祉職への支援	〃 テキスト 第5章 第2節
27	地域包括ケアシステムにおける認知症ケア	〃 テキスト 第6章 第1節
28	多職種連携と協働	〃 テキスト 第6章 第2節
29	まとめ	特に復習したい内容を取りあげます
30	定期試験	筆記試験

科目名	医療的ケアⅡ			担当教員	渡辺・大石		単位数	1	
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	演習	法令等指定	○
履修方法	登録指定科目	科目内容	専門科目	事業期間	半期	学期	前期	卒業要件	○
実務経験教員	○	実務経験内容	看護師として急性期病棟に24年勤務。脳神経外科・消化器外科・循環器科等の実務経験から、人体はイメージできると興味が深まり記憶に残りやすい。説明はイラストや模型を多く使用し、なぜ介護福祉に解剖知識が必要なのかを伝える。						
<b>□位置付け</b> 医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。									
<b>□授業の目的</b> 1. 医療的ケア実施の基礎を学ぶ 2. 喀痰吸引の基礎知識と実施手順を理解し実施できる 3. 経管栄養の基礎知識と実施手順を理解し実施できる									
<b>□授業の到達目標</b> 1. 喀痰吸引に必要な物品が準備でき、適切安全に実施できる 2. 喀痰吸引実施後に利用者の状態を観察し、報告ができる 3. 経管栄養に必要な物品が準備でき、適切安全に実施できる 4. 経管栄養実施後に利用者の状態を観察し、報告ができる									
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>				
出席状況					・喀痰吸引（鼻腔内・口腔内・気管カニューレ内）各5回実施し、実技のみで評価します。 ・経管栄養（経鼻経管栄養・胃ろう）各5回実施し、実技のみで評価します。 ・詳細は初回の授業で説明します。限られた時間で演習を行うため、放課後の時間を有効に使い回数を多く積みましょう。 ・出席前提の科目です。欠席した場合は補習対応になるので注意してください。				
試験等	提出物								
	レポート								
	随時試験								
	定期試験（実技試験）	100							
	平常の授業状況（ ）								
合計			100%	<b>□学生へのメッセージ</b> ・医療的ケアは医療行為です。あなたが医療行為を受けるとき、どんな対応を望みますか？利用者と実施者が、ともに安心できる技術提供ができるよう一緒に楽しく学んでいきましょう。					
<b>□テキスト</b> 最新 介護福祉士養成講座15 医療的ケア（中央法規）					<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b> 適宜紹介します				

### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引、経管栄養	オリエンテーション 喀痰吸引の実施（1～3G）・経管栄養の実施（4～6G）
2		喀痰吸引の実施（1～3G）・経管栄養の実施（4～6G）
3		喀痰吸引の実施（1～3G）・経管栄養の実施（4～6G）
4	実技試験	喀痰吸引実技試験（1～3G）・経管栄養の実施（4～6G）
5		喀痰吸引実技試験（1～3G）・経管栄養の実施（4～6G）
6	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引、経管栄養	オリエンテーション 喀痰吸引の実施（4～6G）・経管栄養の実施（1～3G）
7		喀痰吸引の実施（4～6G）・経管栄養の実施（1～3G）
8		喀痰吸引の実施（4～6G）・経管栄養の実施（1～3G）
9	実技試験	喀痰吸引の実施（4～6G）・経管栄養の実施（1～3G）
10		喀痰吸引の実施（4～6G）・経管栄養の実施（1～3G）

科目名	介護福祉ゼミⅡ			担当教員	松田 朗		単位数	2	
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	演習	法令等指定	
履修方法	登録指定科目	科目内容	関連科目	授業期間	半期	学期	後期	卒業要件	○
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士として介護保険施設及び在宅介護での20年に及ぶ実務経験をもとに介護実践の知識と技術を伝える。						
<input type="checkbox"/> 位置付け 生涯学習に向けた自己学習の仕方を養い、学びを楽しむ力と学習習慣の涵養を目指す科目。									
<input type="checkbox"/> 授業の目的 自己学習の仕方を学ぶ。 国家試験合格を目指して、各試験科目で学んだ内容を整理し、「使える知識」にする。									
<input type="checkbox"/> 授業の到達目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>自己学習の仕方を身につける。</li> <li>介護の実践を想定して、専門職として相応しい態度や発言、行動などと、その根拠となる事柄（専門知識）を関連づけることができる。</li> </ul>									
<input type="checkbox"/> 成績評価の方法			評価項目	割合	<input type="checkbox"/> 成績評価に関するコメント				
出席状況				—	試験はありません。				
試験等	提出物			50	出席状況及び授業態度を重視します。提出物などの課題については提出期限を厳守してください。				
	レポート			—	<input type="checkbox"/> 学生へのメッセージ 自己学習の仕方を身につけ、自ら進んで勉強に取り組む姿勢を身につけます。授業は個人またはグループでの討論を中心におこないます。予習をしたうえで、積極的に授業に参加してください。				
	随時試験			50					
	定期試験			—					
	平常の授業状況（授業態度）			—					
その他（ ）			—						
合計				100%					
<input type="checkbox"/> テキスト					<input type="checkbox"/> 参考図書・資料・参考ホームページ				
<ul style="list-style-type: none"> <li>見て覚える！介護福祉士国試ナビ2024</li> <li>介護福祉士国家試験 模擬問題集2024（中央法規）</li> </ul>					随時お知らせします。				

#### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	領域：人間と社会について①	国家試験に関連した講義・演習
2	領域：人間と社会について②	
3	領域：人間と社会について③	
4	領域：人間と社会について④	
5	領域：介護について①	
6	領域：介護について②	
7	領域：介護について③	
8	領域：介護について④	
9	領域：こころとからだのしくみについて①	
10	領域：こころとからだのしくみについて②	
11	領域：こころとからだのしくみについて③	
12	領域：こころとからだのしくみについて④	
13	領域：医療的ケアについて	
14	総合問題について	
15	総括	

科目名	介護福祉事務			担当教員	山本 貴子		単位数	2
対象学科	介護福祉			学年	2年	授業形態	講義	法令等指定
履修方法	登録指定科目	科目内容	関連科目	授業期間	半期	学期	前期	卒業要件
実務経験 教員	○	実務経験 内容	介護福祉士、居宅介護支援専門員として、訪問介護12年、居宅介護支援5年、看多機等で勤務。社員等への研修に係わる。他経営に携わる。					
<b>□位置付け</b> 介護福祉事務における基礎的知識を養い、介護に関連する制度の理解を深める。								
<b>□授業の目的</b> 要介護状態になっても自宅や住み慣れた地域で多様な介護サービスを多職種と連携し生活が継続出来るように支援し、様々な介護サービスの概要及び保険給付請求に関することに理解を深めることを目的とする。								
<b>□授業の到達目標</b> 1, 介護保険制度について基礎知識を持つことができる。 2, 介護報酬請求について基礎知識を持つことができる。								
<b>□成績評価の方法</b>			評価項目	割合	<b>□成績評価に関するコメント</b>			
出席状況				—	定期試験及び、毎回授業での振り返りレポートを作成していただきます。			
試験等	提出物		—	<b>□学生へのメッセージ</b> 居宅、施設の介護保険制度に係わる費用のあり方を学びます。事例を多く取込み授業を進めます。授業では協力し合って参画してください。 電卓が必要となります。事前に伝えます。				
	レポート		50					
	随時試験		—					
	定期試験		50					
	平常の授業状況（授業態度）		—					
合計				100%				
<b>□テキスト</b>				<b>□参考図書・資料・参考ホームページ</b>				
オリジナルレジュメ				厚生労働省ホームページ ワムネット				

### □授業計画

回数	テーマ	授業の内容、進め方
1	オリエンテーション・介護保険概要	授業の説明と介護保険制度の概要について
2	介護保険サービス利用のしくみ	要介護認定とケアプラン、利用者負担・公費負担
3	保険給付の概要①	介護給付 居宅系サービス
4	保険給付の概要②	介護給付 施設系サービス
5	保険給付の概要③	介護給付 地域密着型サービス・予防サービス
6	介護報酬請求の流れ	介護報酬請求の流れ、算定の原則
7	介護報酬の算定①	介護報酬 居宅系サービス
8	レセプトの作り方①	居宅系サービス
9	介護報酬の算定②	介護報酬 施設系サービス
10	レセプトの作り方②	施設系サービス
11	介護報酬の算定③	介護報酬 地域密着型サービス・予防サービス
12	レセプトの作り方②	地域密着型サービス・予防サービス
13	医療保険給付・請求の概要	訪問診療・訪問看護・訪問歯科 薬剤等
14	障害福祉給付・請求の概要	居宅系サービス・施設系サービス
15	定期試験とまとめ	筆記試験60分 振り返りとまとめ30分

## **2023 SYLLABUS 講義要項**

発行日 2023年4月1日

発行人 川口 拓也

発行所 学校法人 川口学園

早稲田速記医療福祉専門学校

〒171-8543 東京都豊島区高田3-11-17